DE-5-11

発行
メディアワークス
発売
主婦の友社

DC EX

銀河戦国群雄伝ライ 11

真鍋譲治

9784073028765

1910979009500

ISBN4-07-302876-6

C0979 P950E

発行●メディアワークス　発売●主婦の友社　定価950円(本体922円)

DENGEKI COMICS EX

- フォーチュン・クエスト①② …… 迎　夏生 COMIC / 深沢美潮 STORY
- エンジェルアーム①～⑤ …… 衣谷　遊
- ダンジョン・マスター …… 栗橋伸祐
- 央華封神① …… 栗橋伸祐
- 電撃摩陀羅海賊本① …… 田島昭宇 原作 with MADARA PROJECT
- MADARA赤 LASA①～③ …… 田島昭宇
- MADARA壱①～④ …… 田島昭宇
- MADARA 転生編 …… 田島昭宇 with MADARA PROJECT
- MADARA 外伝 死海のギルガメシュ …… 花津美子 with MADARA PROJECT
- 幼稚園戦記まだら①② …… 鼻見依久 with MADARA PROJECT
- 聖痕のジョカ①② …… 大塚英志 原作 / 相川　有 作画
- 銀河戦国群雄伝ライ①～⑪ …… 真鍋譲治
- イース⑤～⑦ …… 羽衣　翔
- 電撃丸（コミックアンソロジー）① …… 衣谷　遊・夢来鳥ねむ・MEIMU他
- KISS …… MEIMU COMIC・今関あきよし STORY・大崎拓 WORDS
- 緋翔伝 幾千の月のかけら①～③ …… 夢来鳥ねむ
- 魔狼王烈風伝①～④ …… 沢田　翔
- メビウスクライン⓪ …… 麻宮騎亜
- 卒業～グラデュエーション～コミック傑作選 …… 内野文吾他
- 卒業～グラデュエーション～ HAVE A GOOD DAY …… 真行寺たつや
- ダークマドンナ …… 荒俣　宏 原作 / 柴田文明 作画
- 外伝・侍魂 …… 山本よしふみ・矢上裕他
- サムライスピリッツ 覇王丸地獄行 …… しろー大野
- しろー駄作劇場 …… しろー大野
- ネオジオコミック海賊本 …… しろー大野
- 大江戸裏ワールド …… 中野　豪

PC EX

銀河戦国群雄伝ライ

11

真鍋譲治

DE-5-11

発行
メディアワークス
発売
主婦の友社

DengekiComics

RAI

BY JOJI MANABE

11

銀河戦国群雄伝

ライ

●ARTIST
JOJI MANABE

●EDITOR
NAOAKI ARAKAWA
ANRI KOMATSU

●BOOK DESIGN
TETSUYA ASAKURA

●SPECIAL THANKS TO
MASAHIKO YAMASHITA
YOSHIKI MORISHITA
TOSHIMICHI OKITA
SHINICHI YAMAGUCHI

戦国の銀河を生き抜く群雄たち

【竜我雷】りゅうがらい

本編の主人公。その度胸と悪運の強さを狼刃に買われて一兵卒より師団長に抜擢され、五丈軍先鋒として南天に雪崩込む。南天軍の前線を突破するや、大暴れして要衝座王都に一番乗りを果たし、その勇名は敵味方に響き渡る。退却戦において正宗に一騎討ちを挑むが破れ、瀕死の重傷を負うが、その傷が癒えぬうちに、元宮廷勢力による反乱の鎮圧に出動し、たちまちのうちに制圧する。その功により騎都尉に昇進、国境の要衝南京楼に大守として赴任する。初めて地盤を得た雷は、その地で希代の天才、師真を自軍に軍師として迎え、また、皇室の娘紫紋を妻に迎えるや、すぐさま中央に反旗を翻し、挙兵する。

【雲海入道】うんかいにゅうどう

雷の長年の戦友。かつては高僧に仕える身分でもあったが、大酒飲みが仇で宗門を追われた破戒坊主。だが、雷にとっては最も頼りになる豪傑である。終始、雷と行動を共にし、右腕として活躍する。

【大助】たすけ

雷の密命を受け、暴政下の武王都に残り、羅の保護を依頼される。雷と同郷であり、幼い頃から雷を兄として慕う。その小さな体に似合わず、雲海と共に各戦場を転戦、修羅場をくぐり抜けた強者でもある。この度の偽帝討伐戦においては、帝都斉王都奥深く潜り込み、師真と図って、敵謀将骸延の失脚を画策するなど、身軽さを生かした活躍が光る。

【大覚屋師真】だいがくやししん

南京楼の豪商大覚屋の放蕩息子。普段は酒色に溺れ、甚だ評判が悪い。だが、その知謀たるや史書、経書から兵法、天文、医学に精通した天才的な戦略家である。自分自身もその知謀で天下を動かすことを夢み、並みいる諸侯からの度重なる招きを全て固辞し、時を待つ。やがて、その南京楼に雷が赴任、紫紋に横恋慕した師真は、城に出入りし、次第に雷に傾倒していく。雷挙兵時には、軍師としてその才覚を余すことなく発揮する。

【紫紋】しもん

敗将阿曹主禅の一人娘。皇室の血を引く唯一人の王女故に、悲しい運命にもて遊ばれる悲

劇の娘である。実の父阿曹主禅を雷に殺され、五丈に身柄を引き取られ、恩賞として、敵でもある雷の元に預けられる。だが、雷とはそれを乗り越え深い愛情を寄せ合う。その後も、雷を陰日向に支えていく気丈な娘である。

孟閣 もうかく

冷静で勇猛な剛将で、南征以後、常に副官として経験不足の雷を適切に補佐する。歴戦の強者であり、その豊富な戦歴に裏打ちされた知識を基に、よく雷を助け、その覇業に重きをなす。

三楽斎 さんらくさい

南京楼軍の武将。主人運が無く、自分の出世のために各赴任地を転々とする。その処世術のために孟閣らにはよく思われていないが、彼自身極めて有能な官僚であり、弁舌の才をもって雷を補佐し、外交、内政面において活躍する。能吏派軍人。

鐘士元 しょうしげん

南京楼軍の武将。雷の師団長時代以来の宿将。勇猛果敢、常に先鋒を受け持ったが、師真のような新参者とは反りが合わず、常に対立するが、緒戦において師真の知謀を認め、その指揮下に入る。

姚文 ようぶん

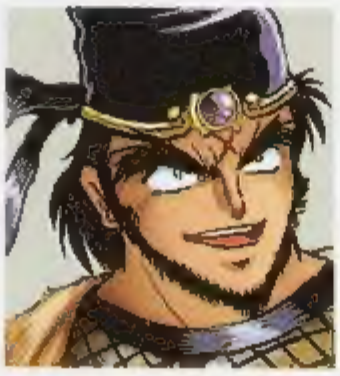
南京楼軍の武将。鐘士元らと共に雷の股肱の臣である。やはり師真らとは合わなかったが、その命には逆らわず、よく戦い、懸羅討伐の前哨戦を勝利に導く。

項岳 こうえん

南京楼軍の勇将。南天との国境近くに根拠を持ち、部下二千を従える大海賊。やがて雷の度量の大きさに感服して一族郎党共々帰順、齢七十になんなんとするが、水を得た魚のように活躍する。

項武 こうぶ

項嶌の息子で怪力無双の暴れ者。八十斤はあろう大斧を片手で軽く振り回す豪傑である。父と共に雷に帰順し、その武勇を買われ、常に先鋒を任される。多分に深慮遠謀に欠けるところもあったが、千軍万馬の強者である。



林則嘉 りんそくか

南京楼軍の謀臣。若い頃は風采も上がらず誰にも相手にされずにいたが、城内に出入りして

いるうちに師真に見出され、雷輔翼の人物として師真と双璧をなす。天才肌の師真に対して、地味ながらその誠実さをもって数々の献策をし、雷の地盤の発展を図る。だが師真の唱える「弼」には疑問を持つ。

【大覚屋英真】だいがくやえいしん

師真の四つ下の弟で、大覚屋の跡取り。兄である師真のような縦横無尽の才略には欠けるものの、その思慮深く、篤実な人となりで、多くの人に一目置かれた。父の後を継ぎ、雷を財政面で強く援助する。

【麗羅】れいら

男勝りの五丈の王女。弾正という強大な権力を背景に我がまま放題である。雷には興味を持ち、紫紋とよく対立し、反乱の罪をかぶせて殺そうともした。弾正の死後、骸羅と結び、五丈を乗っ取る。その後、国を追われ、雲海に保護される。

【骸羅】がいら

五丈四天王の一人。身の丈2m以上の体格と怪力の持ち主。一騎当千の武将で各地を転戦、弾正の死後、対立する玄偉、鳳鳴二将を切り、麗羅を立てて全権を掌握、ついには皇帝の座も手にする。その政治は悪政を極め、宮廷内は酒池肉林の世界と化し、五丈の民に塗炭の苦しみを強いることになる。

【骸延】がいえん

骸羅三兄弟の末弟。武勇一辺倒の兄達とは違い、華玉と共に李張の元で学んだ知謀の士である。兄骸羅の武勇を背景に天下取りを画策し、麗羅を担ぎ上げ五丈中枢を乗っ取る。また、練との秘密軍事同盟を締結、正宗を失脚させる。骸羅の帝位簒奪で丞相に就任するが、師真の反間の計により失脚させられてしまう。

【玄偉】げんい

五丈四天王の一人で凄腕の謀臣。帝国崩壊後の戦乱の中、元帝国側の有力な武将であったが、早くに帝国の再興に見切りを付け、弾正側に寝返り、弾正に重く用いられる。骸羅の反乱の際、華玉、鳳鳴共々、殺害されたと思われていたが、某所での生存が骸延の知るところとなる。雷の偽帝討伐戦に暗躍、部下の華玉と共に復活の機会を待つ。

秦嵐馬（しんば）

銀河西方に広がる広大な西光国の国王。五丈とは長年に渡って衝突を繰り返し、その鎮圧に手を焼いた弾正は、五虎将を派遣してようやくその動きを押さえた。だが五虎将の亡き後、野心を大きくし亡命していた玄偉の口添えもあり、軍を興す。

華玉（かぎょく）

玄偉の腹心。李張道師の高弟でその秘められた力で玄偉に適切な助言をする。弾正の死期を予測し、玄偉を天下人にするため、同じく骸羅の智恵袋の骸延としのぎを削る。骸羅の反乱の混乱時に、玄偉と共に消息不明になるが、雷と骸羅の対決を前に表舞台に現れ、策謀を巡らす。

蘭々（らんらん）

華玉の妹。共に李張の元で学ぶ。道士としての能力は未知数だが、今は紫紋の元で身の回りの世話をしている。幼い割りにはしっかりしていて荒くれ者の印象がある雷の元に嫁ぐ紫紋の身を案じていたが、今では雷を少し見直したようである。

王政（おうせい）

狼刃により金州海決戦のために西光国境より呼び寄せられた五虎将軍の一人。五虎将軍の中で最年長であった

が奮戦する。だが、戦いの終局で捕らえられ、雷に降る。

羅候（らこう）

練国国主。父羅鶴の死後、兵権を受け継ぐ。最初は南天の大国 智に従属していたが、徐々に勢力を広げ正宗にも一目置かれる存在になる。南蛮王国王女、邑峻を嫁取り、その地盤を強固なものにする。正宗の北伐時には、陳を突き、南帝閣を占拠、虎丸を智王に立て正宗の失脚を図る。

邑峻（ゆうしゅん）

南蛮王琥瑛黒洲の一人娘。羅候とは許婚の仲である。南蛮王国との連携を強めるために、羅候の元に輿入れする。百人に及ぶ女兵士を従えるなど相当なじゃじゃ馬ではあるが、花嫁修行は熱心だった。得意料理は七色餃子のてんこ盛り。

姜子昌（きょうしし ょう）

練国きっての名将。若くして、練軍の大都督に任じられ、羅候を補佐し練国の発展に尽力する。正宗による早期銀河統一を阻止するべく画策、幼王虎丸を立てて正宗を失脚に追い込むのに成功する。

蹄庖（ていほう）

練の若き武将。姜子昌の右腕とも言われるのが参軍校尉蹄庖である。知勇に秀でて、智、五丈、南蛮に囲まれた羅候を助け、奮闘する。

独眼竜正宗（どくがんりゅうまさむね）

父先代正宗の死後、弟の虎丸を擁して智の国の国政を司る。女将でありながら、その戦略、行動力で、南天連合軍の盟主として五丈の南征を頓挫させた。戦後、南天の統一に専念。

虎丸（とらまる）

正宗の弟。智の嫡子である。国政、軍事を姉である正宗に全て任せているが、正宗の命により、練の羅候との修好のために義兄弟の契りを結ぶ。北伐の際、正宗失脚のために智王に祭り上げられる。

骸山（がいざん）

骸羅三兄弟の次兄。兄である骸羅と共に幾多の戦場を渡り歩いた武人であり、無双の剣の使い手である。骸羅軍きっての猛将だったが、骸羅討伐に立ち上がった南京楼軍との戦いで、雷に討ち取られる。

狼刃（ろうは）

五丈四天王の一人。知勇を兼ね備えた女将であり、雷の才能を早くから見抜き、その行く末を暖かくかつ厳しく見守る。女傑正宗に刺激され、南天進攻の先鋒を買って出て雷にその先陣を任し、麾下の第三軍を率いて南天に雪崩込む。敗戦の責任を取らされるが後復職。雷に南京楼赴任を勧め、時を待つように諭す。骸羅の親政中に軍最高司令官である大元帥に就任。骸山、骸延亡き後の大帝骸羅の最後の切り札として急進軍してくる竜我軍の前に立ちふさがる。西方より呼び寄せた五虎将軍を中心とした大軍勢を持って灼熱の金州海で死闘を展開、雷を窮地に追いつめるが、師真の秘策に破れ、雷に想いを託し散華する。

……
狼……刃……

師……
師匠か……？
帰ってきてくれたのか……
いやな夢を見た……

狼刃元帥の夢か……まだ自分の運命を嘆いているのか？

いいや、あれも天運だと思っている

天に比べりゃ俺たちなんか小さいもんだ

その天を恨んでもはしまらん……

それは違うぞ雷……

天には俺たちのように命を懸けて戦い熱い血潮を流して己の道を切り開くことはできん

ただ見守っているだけだ俺たちを羨ましがっているかもしれんのだ

なるほど……そいつはおもしろいな……

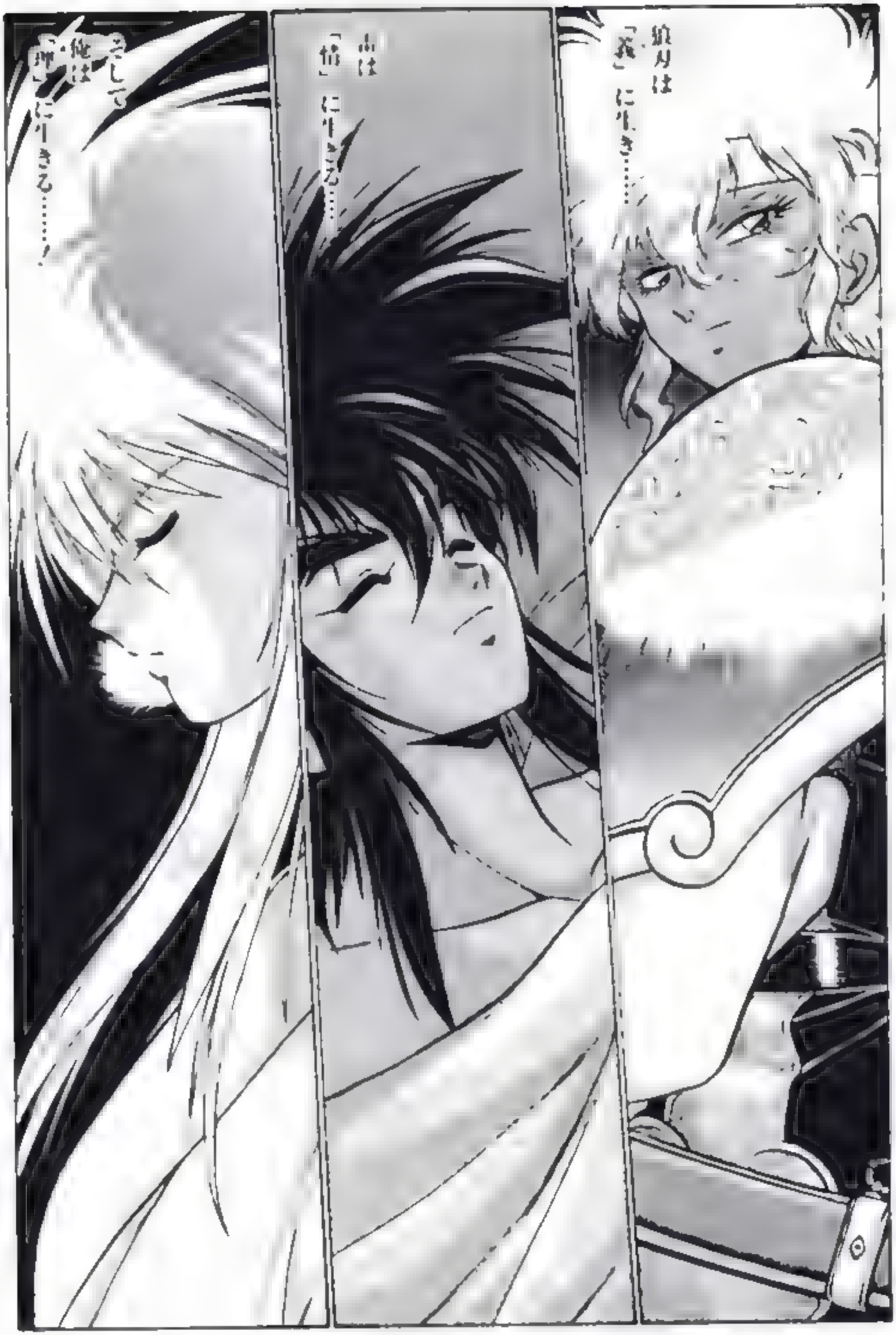
悪夢なら
俺が追い払って
やる

だから
安心して
寝ろ……

いや……
もう大丈夫だ

狼牙への
途な想い……
赤い魂の
半分は
本当狼牙の許に
ある……

そういう男だ
竜我斗は……


琉乃は
「表」に生き……
山は
「裏」に生きる……
そして
俺は
「狭間」に生きる……！

おまえの「情」と
俺の「理」が
重なり合うときに
無限の相乗効果が
生まれる……

そのとき……
大下への道が
開かれるのだ……

たか

ときおり
「情」に生きている
おまえを
うらやましく思う
ときがあるぜ……

大五丈　王宮

ねえ陸下
竜我雷の首いつになったら拝ませてくれるの？

わっはっはっはそんなに見たいか？あのクソガキの首が！

だって陸下に刃向かう賊軍の大将さぞかし恐ろしい顔をしていると思うわ

安心せい今に狼刃が手柄話と一緒にこのわしに献上してくれるだろうよ

そのときにそのバカ面をよ――く見て笑ってやれ！

陸下……

何だ？くだらん話を持ってきたんじゃねえだろうな

残念な
御報告を
申し上げなければ
なりません……

討伐軍が
破れました
……！

な…何いっ!!

破れただとぉ!?

バカを言うな！
狼刃は……!?
五百万の軍勢は
どうした!?

狼刃元帥は
討ち死に……
五虎将軍以下
全軍壊滅状態と
なった模様です……

ろ……
狼刃が……

討ち死に
……!!!

陛下!!

陛下!!

陛下!
お気をたしかに!!

狼刃が
死んだ……

そんな
バカな……
いいや
ありえんことだ!

そうだ!
あってはならんのだ!!

そいつは
何かの間違いだ!
その知らせを
伝えた奴は
どこのどいつだ!?

しかし陛下
相継ぐ知らせは
皆一様に
狼刃元帥の
死についての
報告で……

だまれ!!
だまれ
だまれ
だまれ——っ!!

狼刃とは
弾正が旗揚げ
したときからの
付き合いだぞ!

あいつのことは
俺が一番
よく知ってる
のだ!!

狼刃がいればこそ
俺はこの五丈を
手に入れたんだ!!

それなのに……

狼刃よ!
おまえは
この俺を置いて
先に行ってしまう
のか!!

許さんぞ!
戻ってきてくれ
俺はおまえが
必要なのだ!!

狼刃(ろうは)よ!!

ガガガ!!!

こっこれ
陛下を
ひとまず寝所へ
お連れするのだ

は…はい

陛下
どうか気を
お静め下され

さわるな
バカ者!!

へ…陛下!!

狼刃が
殺されたのに
寝てなんそ
いられるか!!

俺の鎧を
持ってこい!!

軍勢を
集めろ!!

は…はは…っ!

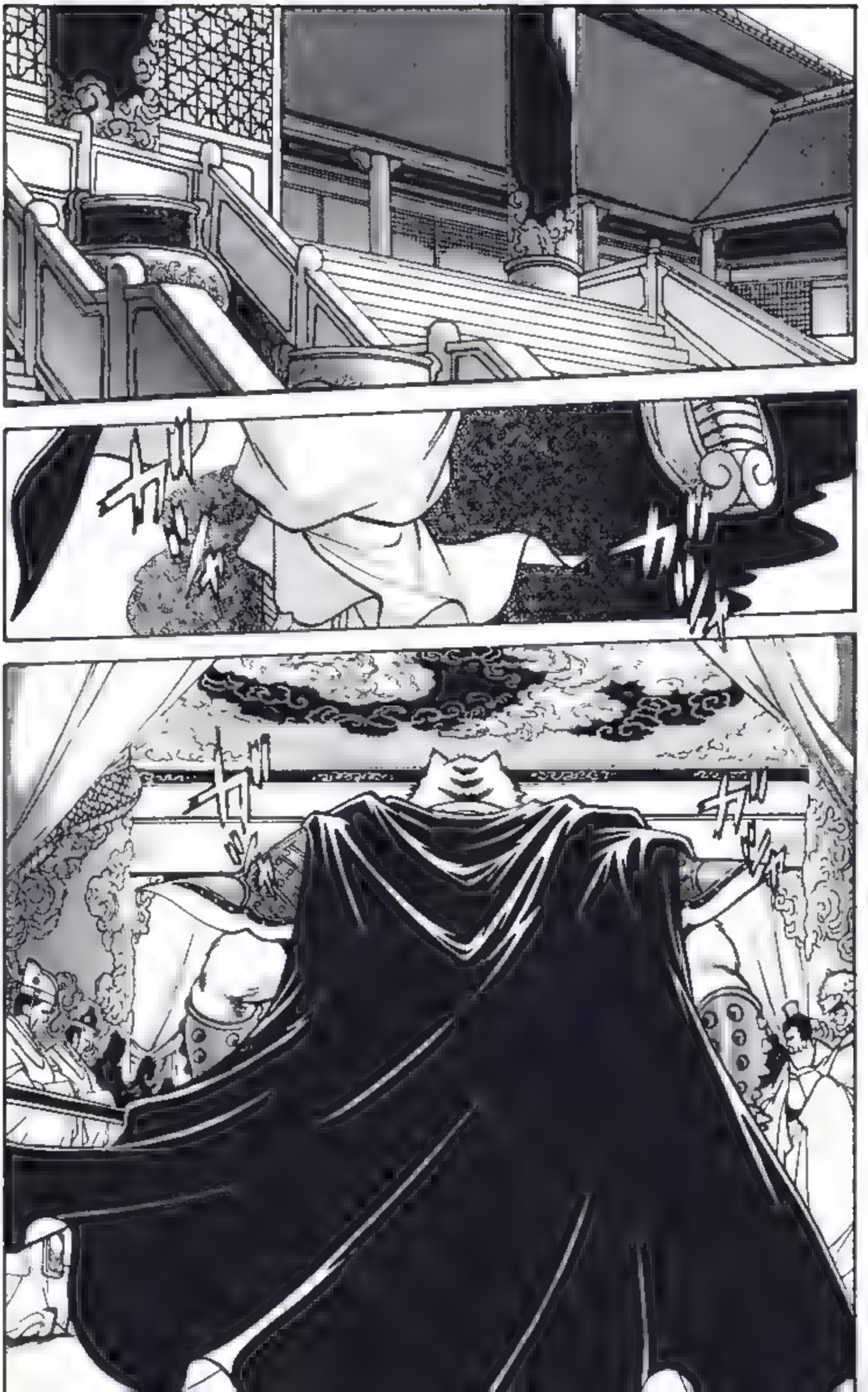
ただちに…!!!

竜我よ…!!!
このわしの怒りが
わかるか!?

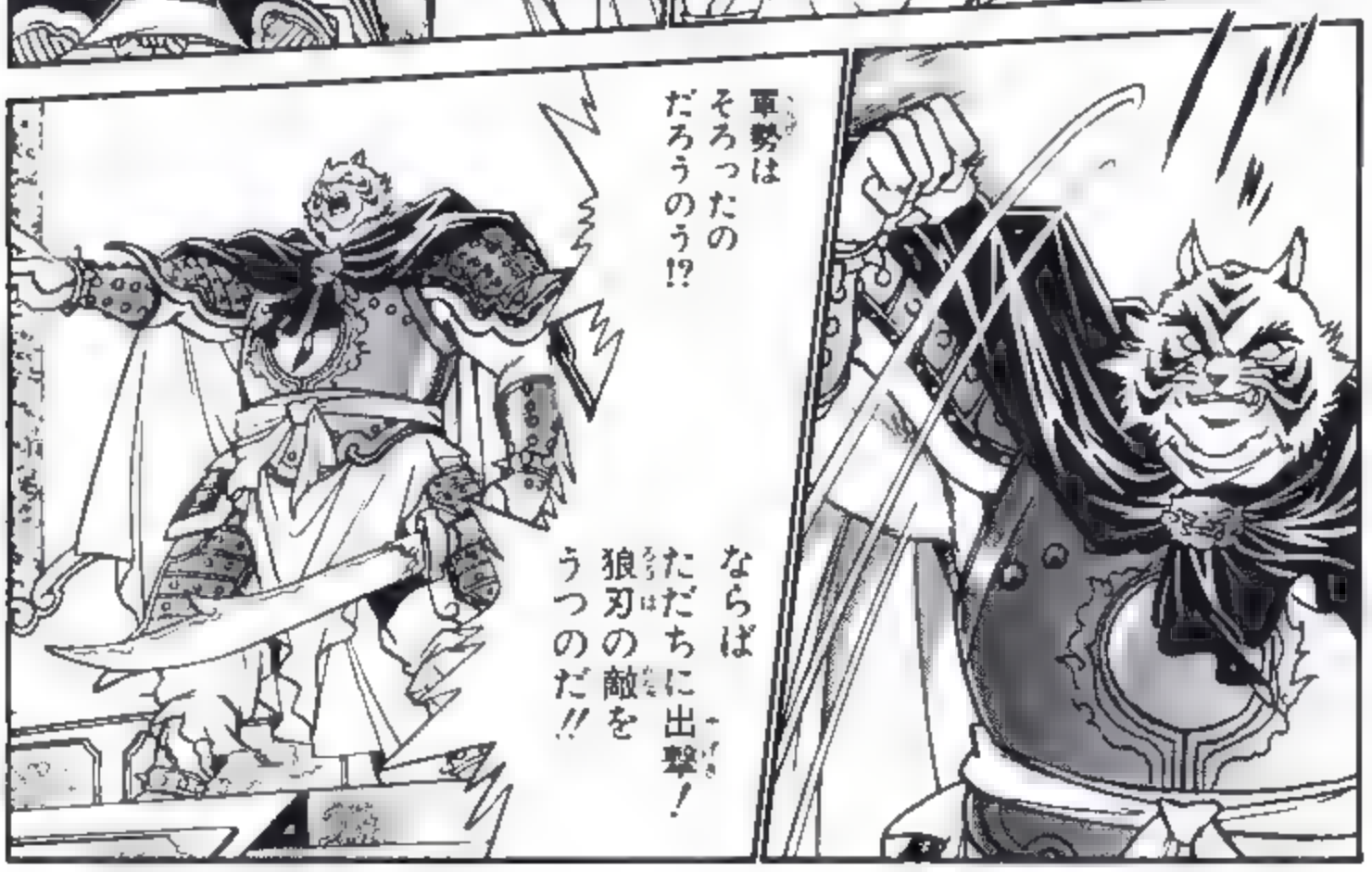
きさまを
ズタズタに
引き裂いても
まだ足りぬわ!!

殺してやる!!

殺して
やるぞ――っ!!



ガハ
ガハ
ガハ


軍勢は
そろったの
だろうのう!?
ならば
ただちに出撃!
狼刃の敵を
うつのだ!!

……

陛下……
謹んで
申しあげます

ん!?
何だ?

まだお気づきに
なりませんか……

今や大五丈は
国家存亡の
危機にあります

猛将・知将
ことごとく
失われ
兵は四散して
おります

きさま……
何が言いたい!!

はっ

ことここに至れば
速やかに王宮を
無血開城し
竜我軍を受けいれ……

遅まきながら
陛下は退位
なされ
竜我将軍との
和睦を計るべき
です

今降れば
多くの命が
助かりましょう

陛下のご決断を……

どっ!!

おろか者が……!!

敗北主義者はまだここにいるか!?

……

いないのだな！

ならば出陣準備を急げ！できる次第出撃する!!

陛下申しあげます

ええいこの期に及んで何だ！

南京楼軍は寡兵ながら常に我が軍を討ち破りました

この強さは人にあると思います

「武」の竜我に「知」の大覚屋師真なる者がついております

狼刃元帥も他の五丈の将も「武」に勝りながら「知」に敗れたのです

何だと……

では我が軍には その「知」の持ち主がおらんというのか!!

いえ……おりまする

陛下の
弟君
骸延殿で
ございます

何と
……!!

しかし
……!

だがあいつは
わしを裏切った
重罪人だぞ!

そのような奴を
どうして
使えるか!!

お待ち下さい
陛下

私も骸延殿を
推挙いたします

今思えば
骸延殿の容疑
敵の離間の策
やもしれません

何だとおっ!

何を申すか
丞相の容疑は
まぎれもない
事実でござる!!

何を
血迷うたか!!

緒戦に敗れたとはいえ
あの時点で
我が軍の優位は
変わっていませんでした

何故そんな時に
骸延殿が
内通なされねば
ならなかったのでしょうか

一国の宰相ともなれば
たとえ降っても
命の保証は
ございますまい
骸延殿も
それはご存じのはず……！

ならば
わしらは
若僧の策に
まんまと
はまったと
いうのか!!

陳承

ひっ!!

へ…陛下……
私めは
陛下が国家の
安泰のために
申し上げただけで
ございます!!

ですから
その……

車裂きに
して
しまえ!!!

どうだった？

うまくいった
陛下は骸延様の
復職をお認めに
なったぞ

丞相大元帥
閣下だ

衣冠の
支度は
できておろう
のう

もちろんだ

今の五丈を
救えるのは
あのお方だけだ

あ

骸延様
釈放の
詔じゃ！
牢を開けい!!

はっ!!

骸延様！

丞相お喜び
くだされ
無罪放免で
ございます

丞相!!
さあ
参りましょう!
丞……

丞相……

ゴゴゴゴ

ゴゴゴゴ

うわあああああっ!!

殺させん!

殺させないぞ!!

殺させないぞ――っ!!!

出ていけ悪魔め!!

出ていってくれ——っ!!

終わりだ

五丈はもう終わりだ……

ゴ＊＊＊＊

……

将軍！
武王都です

おうっ！

弾正様の
居城……

俺の人生も
ここから
始まったんだ

戻ってくるのに
ずいぶんとまあ
手間取ったもんだ

将軍のお館に
精気がもどられて
いる……

……

ふ……

そうか……
弾正様が……

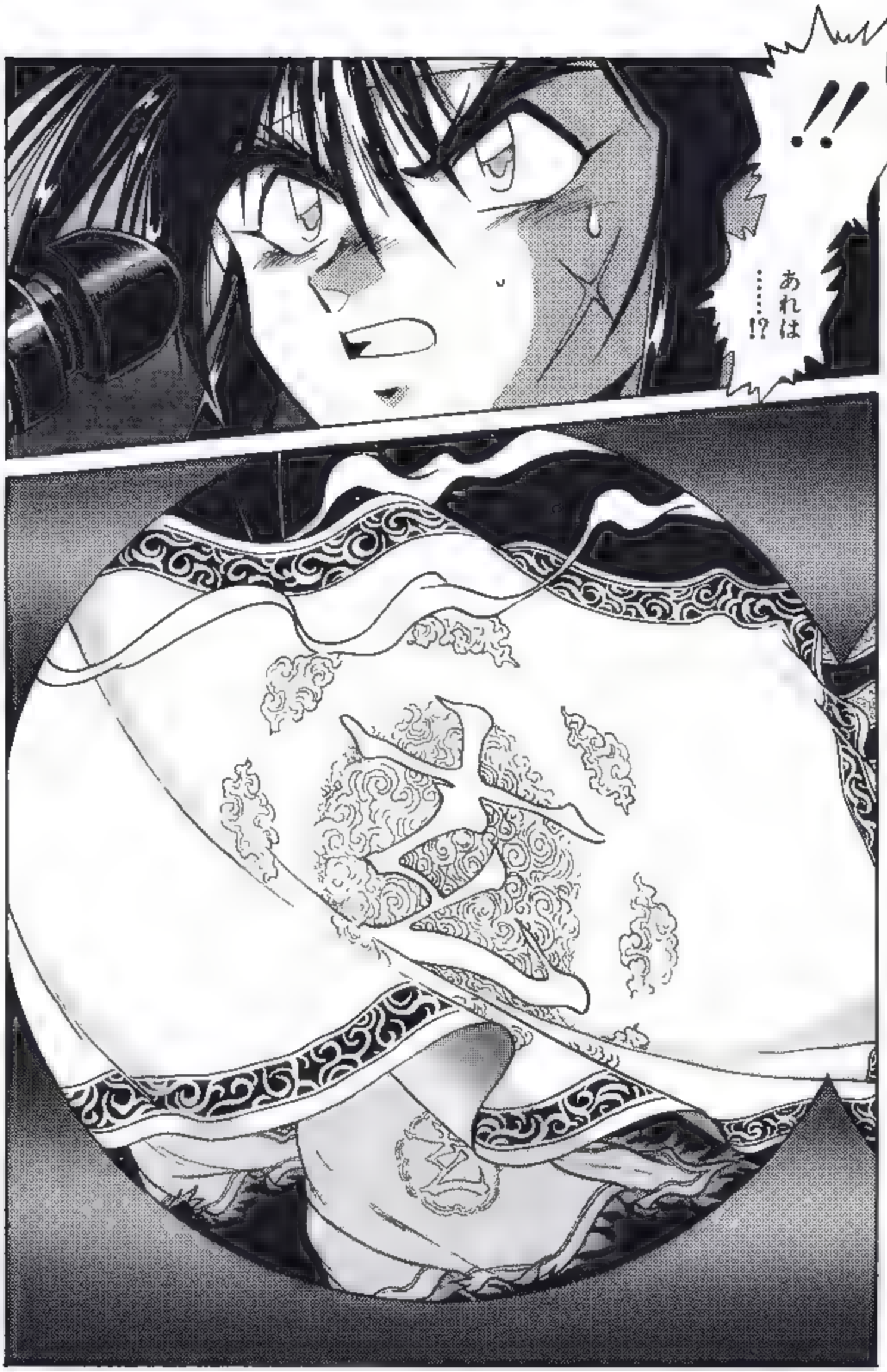
よかった
本当は泊まりたい
お方じゃなかったんだ……

よ

何？
何やってんだ

あ…
いえ
その…

将軍！
大規模な艦隊が接近してきます!!
何だと！どこからだ!?
方位一四〇！三隊に別れて移動しています！戦闘序列は作っていません!!
師真！こいつはどこの艦隊だ!?
さあな……
規模と方角からして偽帝軍とは思えん……
敵対行動をとってないのならどこかの軍勢が加勢にきたんじゃないかな？
旗印は見えるか孟閣！
お待ちください
見えました！いや……しかし……
どうした？


!!
あれは……!?

四元帥筆頭の
風鳴は
戦場に斬られ

四元帥は
金州海の決戦で
散華し……

そして……
偽帝勝利も……
追いつめた……
……

今の今になって……
あの男が
生きていたとは……

玄偉……！

しっかし
未だに信しられねえ
あいつが生きてた
だなんて……
ねえ将軍

ああ…

とこで
どうしてたか
知らねえが……
大した野郎だな

けと
タイミングが
良すぎゃ
しませんか!?

まるで
トンビに油揚げ
さらわれるよーな
もんですぜ!

見たでしょ
連中の艦隊!
どこで調達
しやがったのか
斉王都なんぞ
一呑みにする
勢いですぜ!

たしかに……
ありゃとこの
艦だ?
見たことねえぜ

なあ
師真
おまえは
どう……

いや――
そんなことより
将軍!

な……何だよ？

へへ……

玄偉の腹心
華玉とかいう
ね――ちゃん

えらい
美人って
聞いてるけど
ほんと？

師真!!
おまえ……!!!

いや――
冗談冗談！

今とーいう
状況か
わかってんのかよ！

将軍！

！

カッカ
するなって

奴の……
玄偉の策に
はまっちまう
ぜ！

権謀術数に
関しては
奴の方が
将軍よりも
はるかに上だ

そーいう男を
相手にするんだ
頭に血が上ってると
わかるもんも
わからんように
なるぞ

悪かったな！

てーまりゃ
いいんだ？
今から立像に
会うんだぜ

な――んも
しなくて
いいよ

あっちが
どう出るか
わかんないんだ

とりあえず
歓迎して
バカ話でも
すればいい

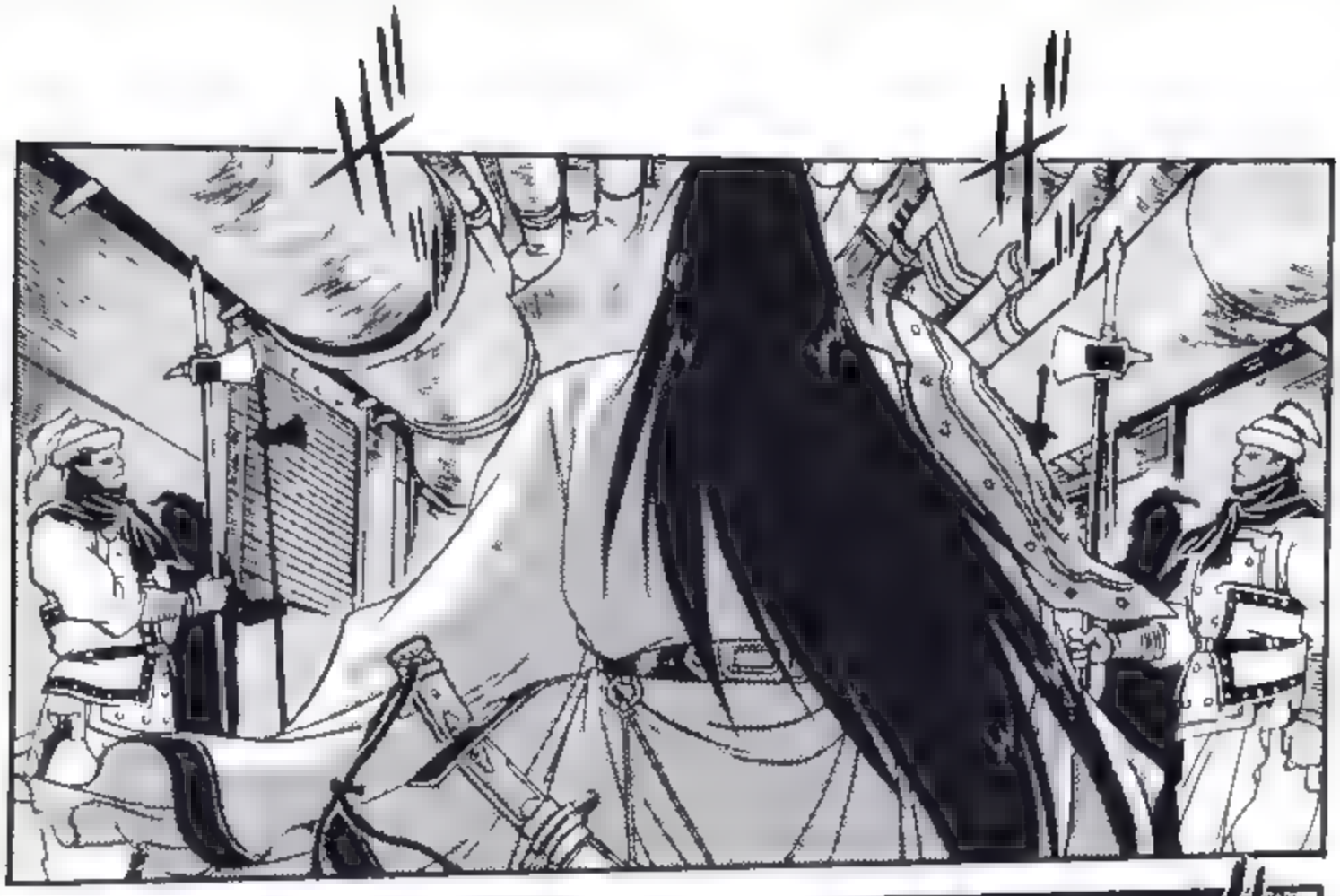
様子を見て
策を考えよう

それっきゃ
ねえな……

ご到着の
ようですぜ

！

二日目
な…っ！
これは……
西羌兵(せいきょうへい)……！
西羌兵(せいきょうへい)だと？
ふ――む
そのようだな



流亡の将である
私のために
将軍自らの
お出迎え
痛み入ります

なんの
玄徳殿こそ
ご無事で
何より！
心からお喜び
申す！

ご存じとは
思うが
我が家臣の
華玉でござる

将軍に
またお会いでき
恐悦至極に
ございます

久しぶりだな

あっ
ちびすけなら
元気だぜ
南京楼で
お留守番だ

それは
どうも……

妹も
将軍の許に
お仕えできて
幸せでしょう

この度は
将軍の
度重なる武功
そして偽帝討伐の
熱い想いに触れ
遅ればせながら
助力いたしたいと思い
馳せ参じた所存

どうか
戦列の端にでも
お加え下さるよう
お願いいたす

それは
かたじけない

だが……

だが？

見たところ
玄偉殿の
軍勢……
西羌兵の姿が
見えるが……

彼らは？

将軍に
お引き合わせしたい
人物が
ございましてな

西羌の主で
あらせられる
秦嘉様で
ござる

西羌王!?

西光の
秦鷹で
ござる！

お初に
お目にかかる
俺は
五丈鎮南将軍
竜我雷！

西光王に
お目にかかれて
光栄だ

それがしこそ
武勇の誉高き
竜我将軍と
お会いでき
光栄です！

将軍 立ち話も
何でしょう
宴席も用意して
おります
奥へ……

おう
では御三方
ご案内しよう

なるほとね……
玄偉の奴
西羌を
抱き込んでた
とはね……

軍師！

しかも
狼刃が五虎将を
呼び返して
国境が手薄に
なるのを
待ってやがった
か……

まずいですね
西羌とは
南蛮王国と同じく
長らく帝国の
支配下に入るのを
拒み続けた
蛮族の国

五丈の内乱に
第三勢力の介入を
招くことに
なりますよ

連中
五丈が
解体されるのを
待ってやがったのさ

まあいい……
天下平定のためには
いつか西発を
平らげなきゃ
ならねえんだ
遅いか早いかの違いだ

林！
三楽斎と
連絡を
取れ！

はい

西発のことを
調べ上げるんだ
特に今国内では誰が
兵権を持っている
とか……

国家体制
全般をだ！

ほ――
すると玄偉殿は
あの事変以来
ずっと
西羌の地へ

さよう……
身一つで
落ちのびまして
な

よく
骸羅の目を
逃れたもんだ

俺はてっきり
死んだものと
思ってたぜ

……

実は……
今は亡き
狼刃元帥の
手引きが
ありましてな

狼刃元帥、の!?

さよう
おかげで
あの政変の中
九死に一生を得た
ということ……

失礼だが
あの当時
五丈四天王は
互いに政敵同士
だったはず……

わかんねえな
何て狼刃元帥が
玄偉殿を……?

いや
一度狼刃殿の
かわいがっている
小龍がそそうを
いたしましてな

私が弾正公に
うまく取りなし
いたしました
その恩返しのつもり
でしたかな……

じゃあ
あの時
俺の処分が
軽かったのは……

くそっ
あれで狼牙元帥は
玄偉に
大きな借りを
つくってたのかよ

まさか
あの時にもう
曹羅のクーデターを
予見していて
自分を守る手段を
考えてたのか？

どっちにしろ
厄介な相手の
ようだな
玄偉……！

今まで
戦った
どの武将とも
次元が
違うぜ……！

……でその後
今までずっと
西羌に？

さよう

西羌王とは
いささか
顔見知りでしてな

かくまって
もらった
あげく
この度私に
兵まで
お貸しいただき
まさに
感謝の極みです

いや
竜我将軍を
お助けして
五丈に平和を
取り戻したいという
玄偉殿の熱意が
あればこそじゃ

ちっ
なんだか
おもしろく
ねぇぜ！

どうした
項武よ

けっ
考えてみろよ
鐘士元！

南京楼を出て
早四十日に
なろうと
してんだぜ

俺たちはその間
ずっと戦って
ここまで来れたんだ

俺たちが
肉をえぐられ
血を流して
きたことは
何だったんだよ？

今までぬくぬくと
様子うかがいしてた
野郎に
手柄を
かすめ取られる
ためじゃねえや！

まあ
気持ちは
わかるが
将軍には
軍師がついて
おられる

そう易々と
手柄を
取られる
ことは
ねえよ

ふん！

連中
何かおかしなこと
しでかしたら
たたっ斬って
やる！

西羌十八
叛部か……
多少野心家では
あるが……

奴とて
国を束ねる
器量の持ち主……
そう簡単に
玄偉の口車に
乗るとは
思えん……

こいつは
何か
裏が
あるな……

そうだろ？

ええ
牛王さんよ

華玉殿
よろしければ
酔い覚ましに
ご一緒に
星空でも
ながめに
まいりませんか

あっ師真の
野郎…
いい女だと
すぐこれだ……

おいっ
こら
師真！

ワナ。

それは
光栄ですわ
あなた様のような
名高い兵法家と
ご一緒できるなんて

じゃあ
ちょいと
♪

何をお考えてんだか……

師真様の
軍師としての
お働きぶり
遠く西羌の
地まで
聞こえ及びました

まことに
真の兵法家だと
この擧玉
畏敬の念の
面持ちで
ございます

そいつは
そっくりおまえさんに
返すぜ

骸羅の政変の
中での
西羌王の抱きこみと……
いやはや感心する
他ねぇな

ん——

お誉めいただき光栄でございます

見なよ

雷の星だ！

五光七彩の光を帯び多くの将星を従え運気はなはだ盛んだ

あれこそまさに天子の気だ

なら
夏侯覇は
王下はいずれ
戦況が厳しい
もの
と…？
いいや！
人間の盛衰興亡は
人智で
変ではない
それが
星占いばかり
やるわけじゃねーもん。
蒼王殿！
次のお相手は
あんたのようだな
美人は
大いにけっこう
俺も燃えるぜ
……

こいつは
ほんの
あいさつ代わりだ

ドクン

……!!!

いやっ!!

いて
〜〜っ！

無礼にも
ほどがあります!!

失礼させて
いただきます！

くっくっくっ

はーっ
はっはっはっは!!

それでは――

打倒骸羅と
竜我将軍の
更なる武功を
期して……

そして
我ら三人の
友情を
祝して

やめろ
やめろ――っ!!

やいっ玄偉(げんい)てめぇ！

偽帝討伐に何の功もないくせになにでかい顔してやがんだ!!

やめろ項武(こうぶ)!!

竜我様が屁をふるって狼刃元帥を倒し……

俺達がとれだけ血を流したかっ！ きさまにわかんねえだろええっ!!

いいや！ まだ言いたりねえ!!

みんなだまされるなこいつらに手柄(てがら)をかすめ取られるぞ!!

……

ほら落ちつけって項武！

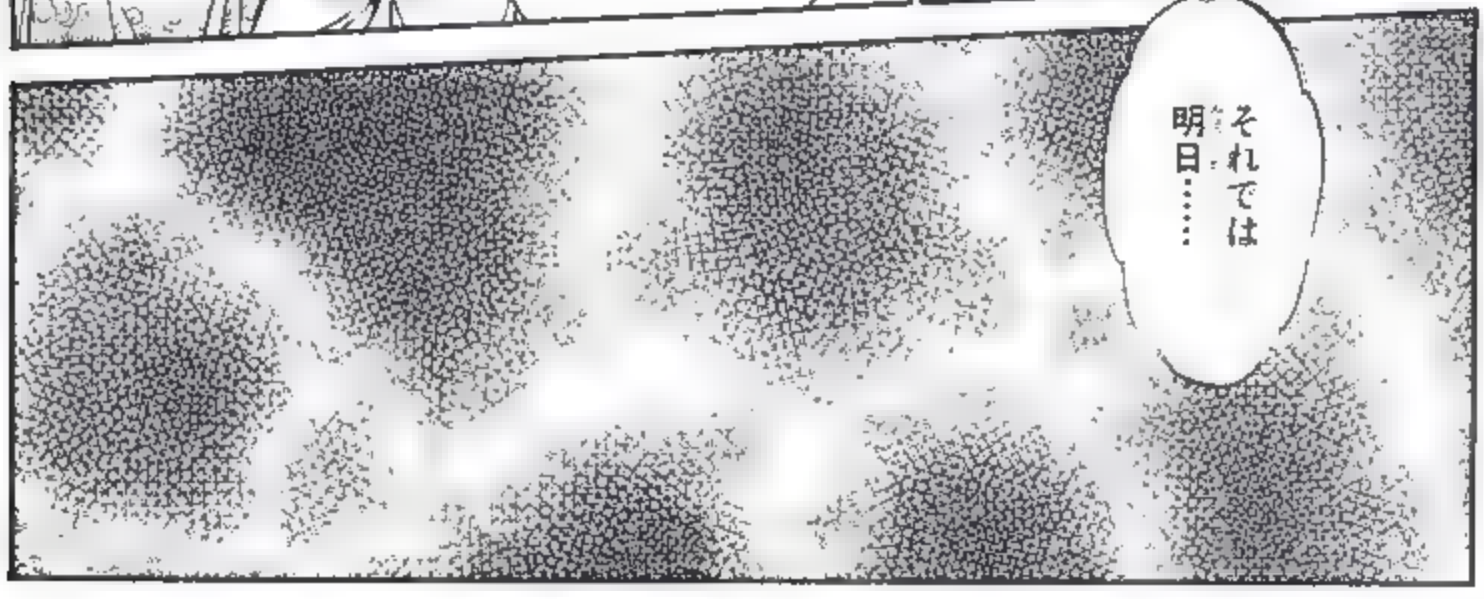
……ったく酒が温(ぬる)っちまってしょーがねえな

はなせーっ!!

いや
悪かったな
お二人とも
あいつは
血の気が
多くてな
酒のせいも
あるだろう
気になさらんで
くれ
はっはっは
酒の席で
ござるよ

気にしては
ござらん
あの男に
おとがめなど
なされぬ
様に……

明朝
武王都にて
弾正様の
墓前に
参るつもりだ
お二方も
ご同行
願いたい
承知した


それでは
明日……

玄偉め……

あの男
何を
たくらんで
やがんだ……！

ふ……
じきに
わかるよ

いたっ！
やーれやれ
またですかい
針仕事が
できないようじゃ
嫁にはいけませんぜ
!!
うっさい
うちの父上はな
針仕事せな
あかんよーなとこには
嫁にやらんて
ゆーとったんや！
こんなの
下女の仕事や
ないか！
そういいますな
針も機織も
女のたしなみで
ございますぞ

それに竜我将軍とお会いするのにほころびがある服ではまずいでしょうが

そらそうやけど……

ふん！雷はうちに針仕事なんかさせへんわ！

紫紋様も針仕事はなされますぞ！

え？うっそ～～～！

せやかてあいつかて一国の国主の娘やで普通そんなことやらへんはずや！

ところがどっこい将軍の服はいうにおよばずわしや太助の分まで面倒見てくれますな――

は……ははは！

いやうちは別に嫌やってゆーとるんとちゃうんやで！

楽しい楽しい楽しいなっと♡

やれやれ……

なあ和尚……

雷がうちにかまってくれてるんは……

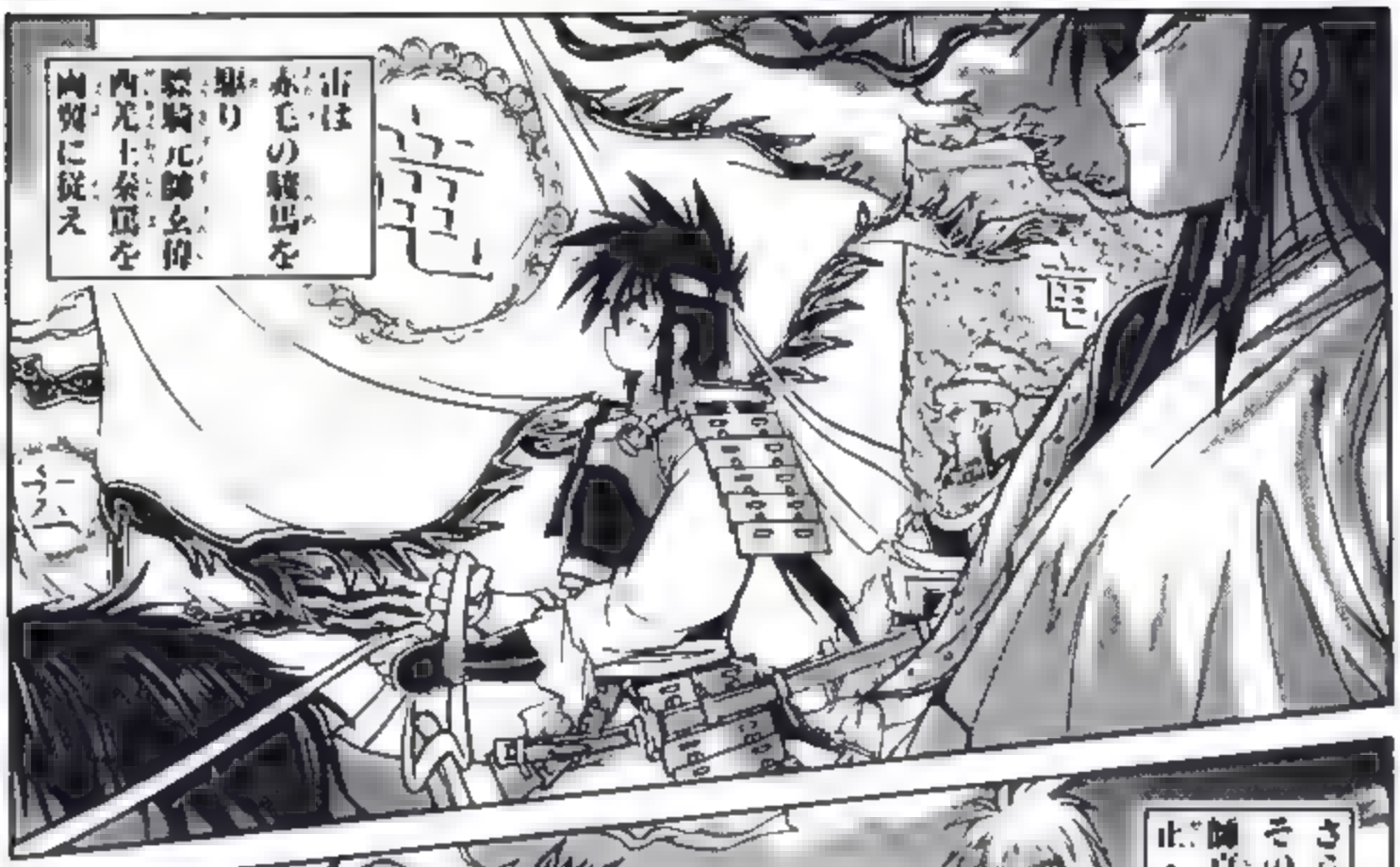
うちが亡き主君比紀弾正の娘やからか……？

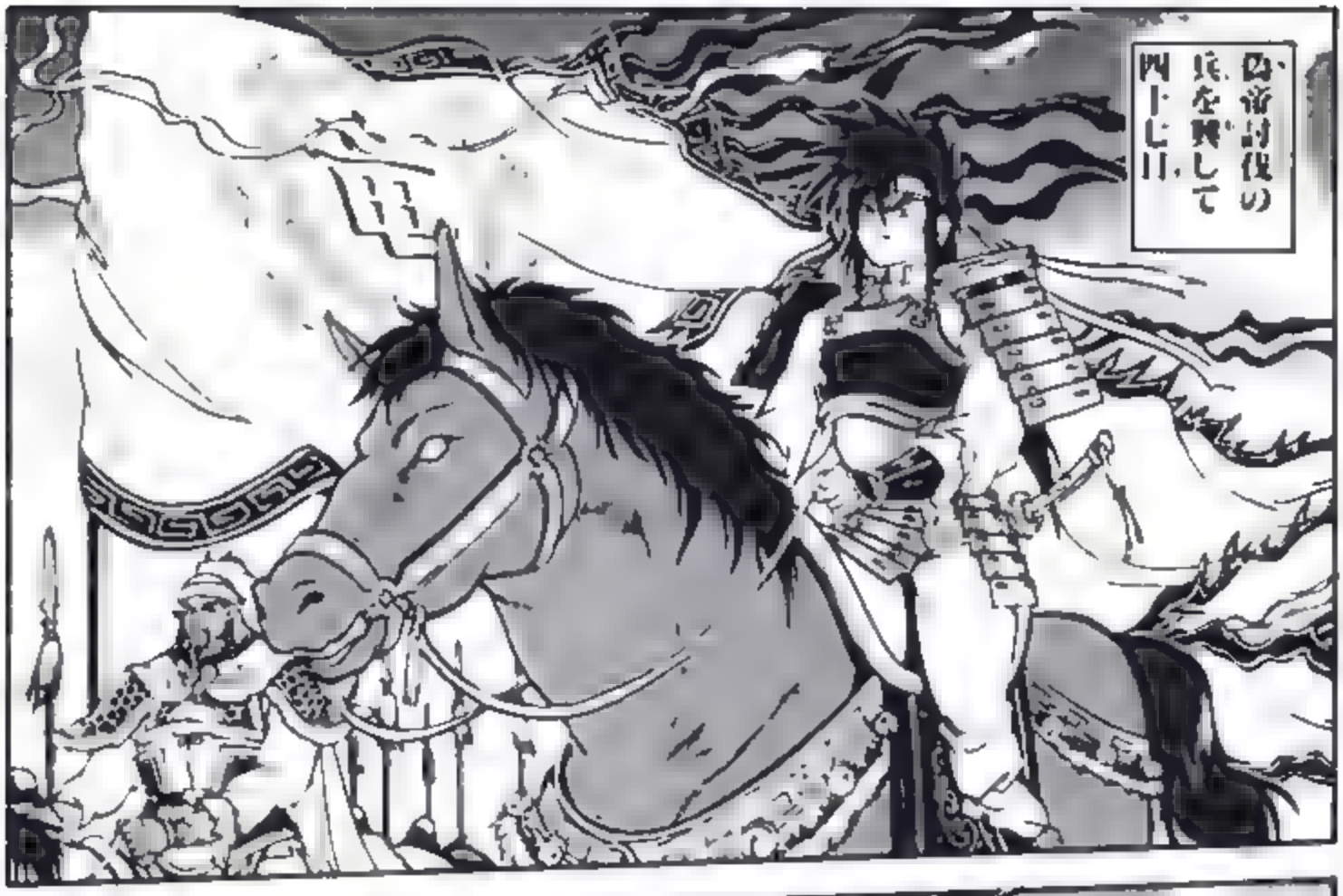
姫様は将軍のお心をだれよりもよく知っておいでしょう

ならば心配なさらなくても大丈夫ですぞ

ご到着のようだ

その日の朝
雷は
かつての五丈の首都
武士都に
降り立った
雷


曹は
赤毛の騎馬を
駆り
禁騎元帥を率い
西北十余国を
両翼に従え
さらに
その後に
師貴・林国高の
正・副軍師
孟獲を
初めとする
蛮戦の
猛将たち
そして
曹の討伐軍に
加わった
多くの諸侯が
続いた


白雉を拝し
今や雷は
討伐軍総大将
として
亡き十市
比紀弾正の
幕前に赴いた
のだった
偽帝討伐の
兵を興して
四十七日

ちょいのいてや!!

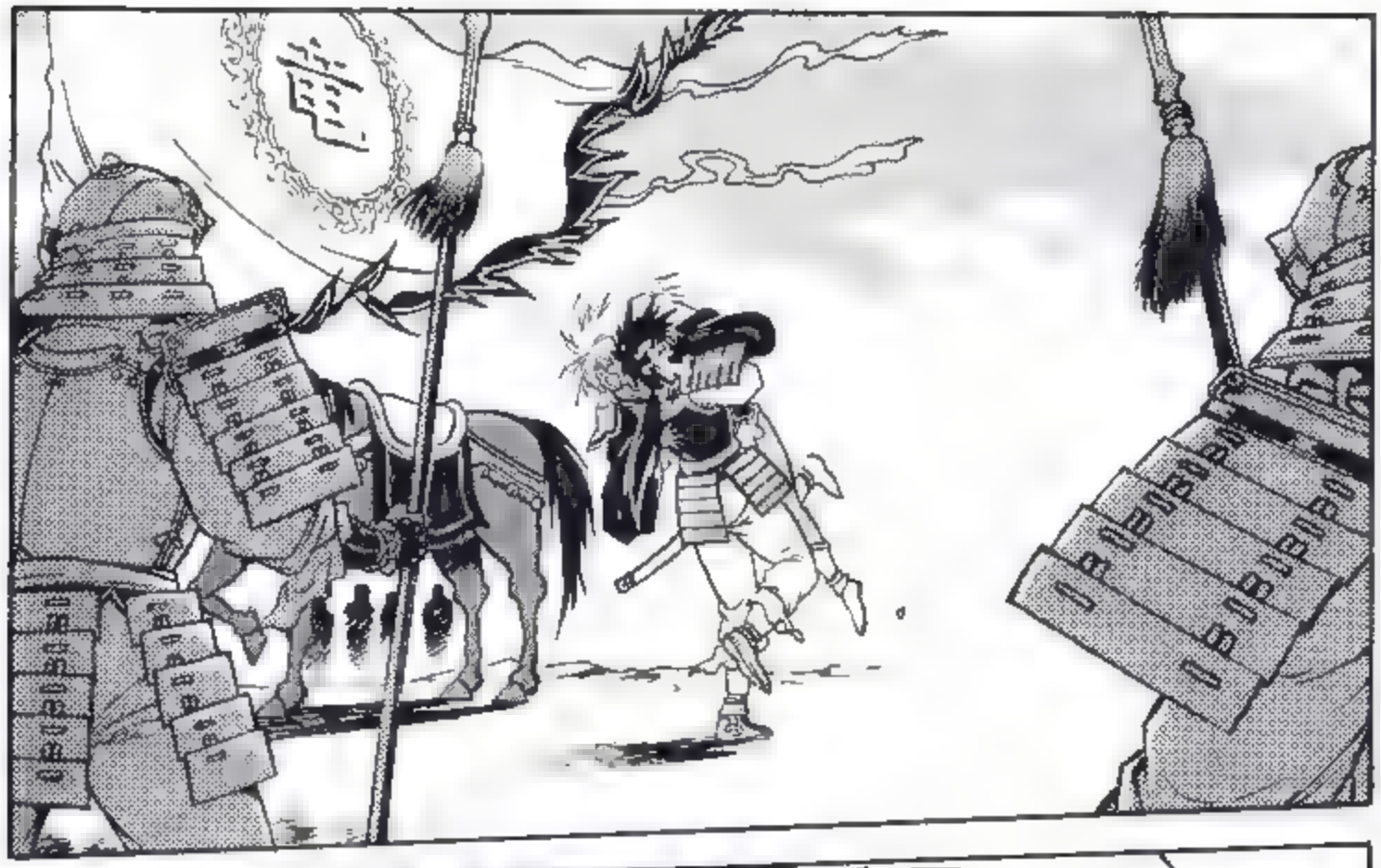
アホ うちの袖 引っ張んな!!

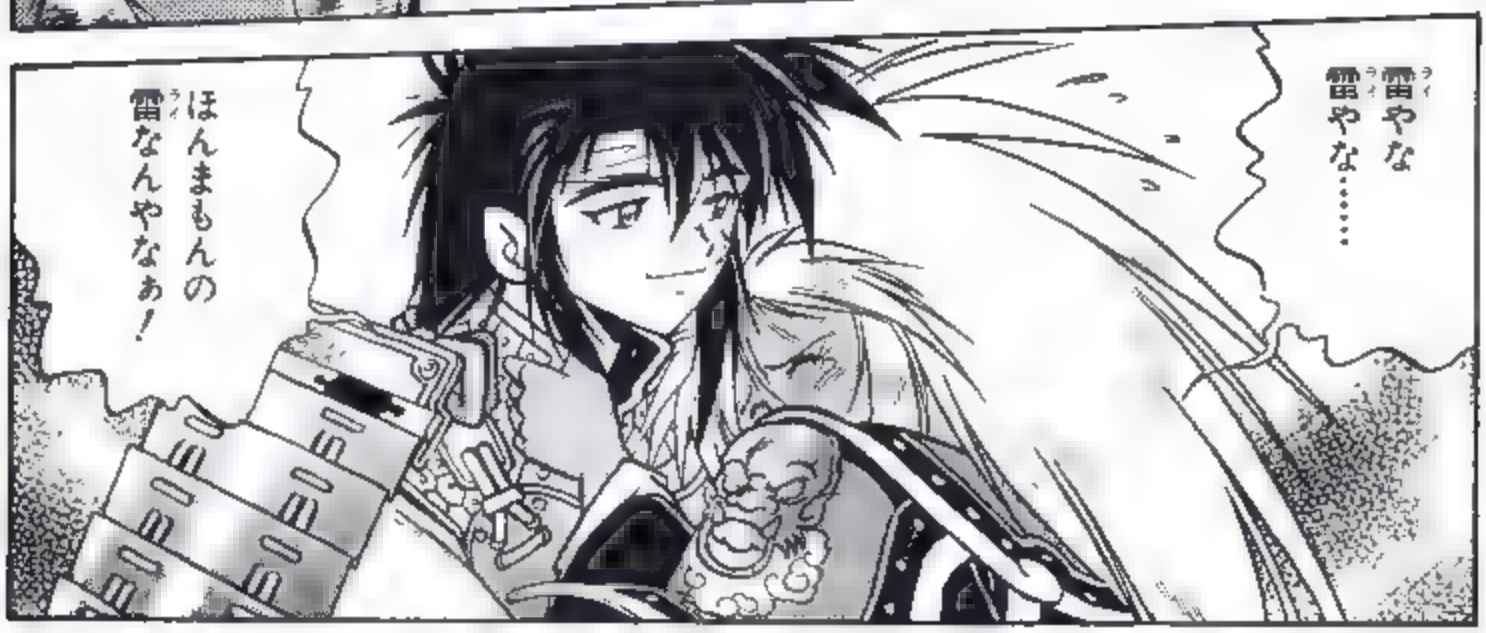
!

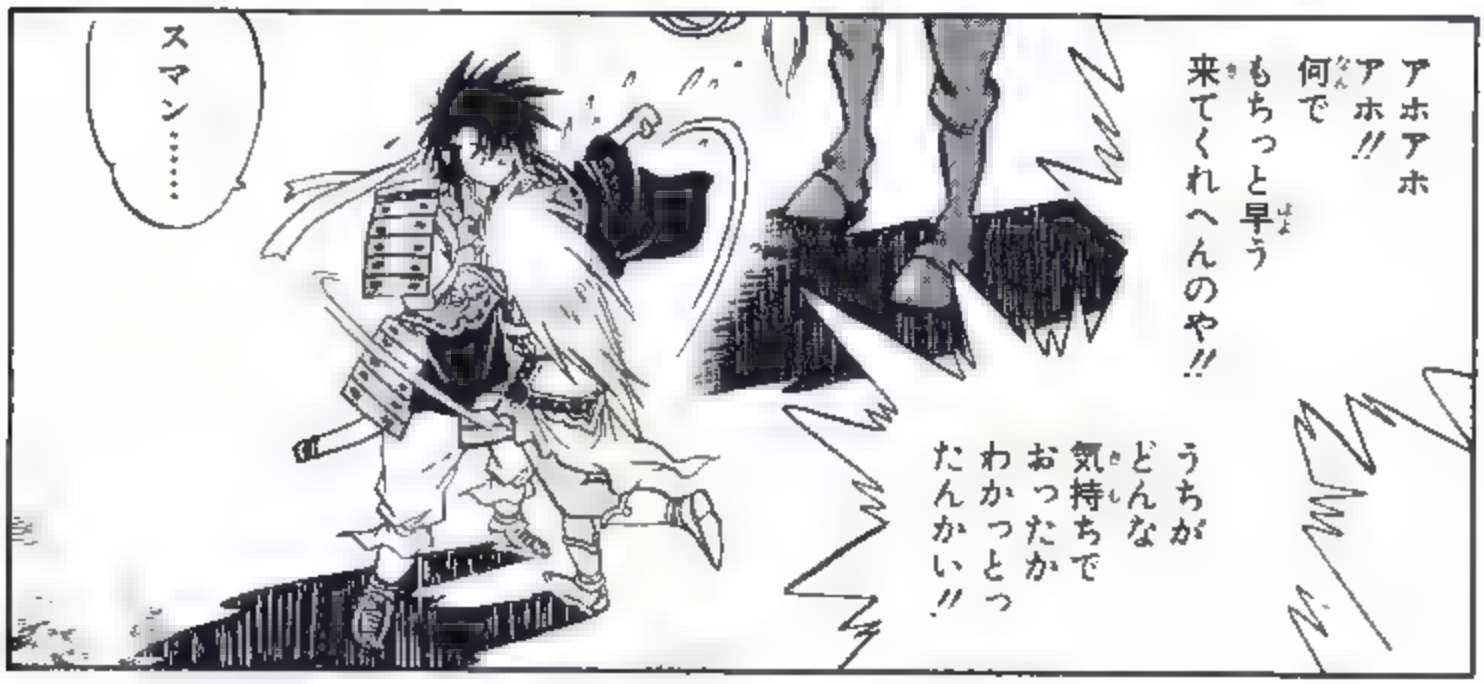
雷(カー)!!

姫さん!!

雷〜〜〜っ!!




雷やな
雷やな……
ほんまもんの
雷なんやなぁ！


アホアホ
アホ!!
何で
もちっと早う
来てくれへんのや!!
うちが
どんな
気持ちで
おったか
わかっとったんかい!!
スマン……

遅くなって
悪かったな

さあ
もう
泣くなって！

うん……

ケンロク

雲海
ご苦労だったな
すまねえ

な――に

けんど
噛みつかれたり
引っ掻かれたり
するのは
ゴメンだがな！

おめえと違って
女の扱いには
慣れてるんでな

おいっ
麗羅様に
興を持っていっ!!

ああ
いいんだ
孟闇

さあ
こいよ
姫さん

ええんか!
ほんまに
ええんか!!

やった――♡

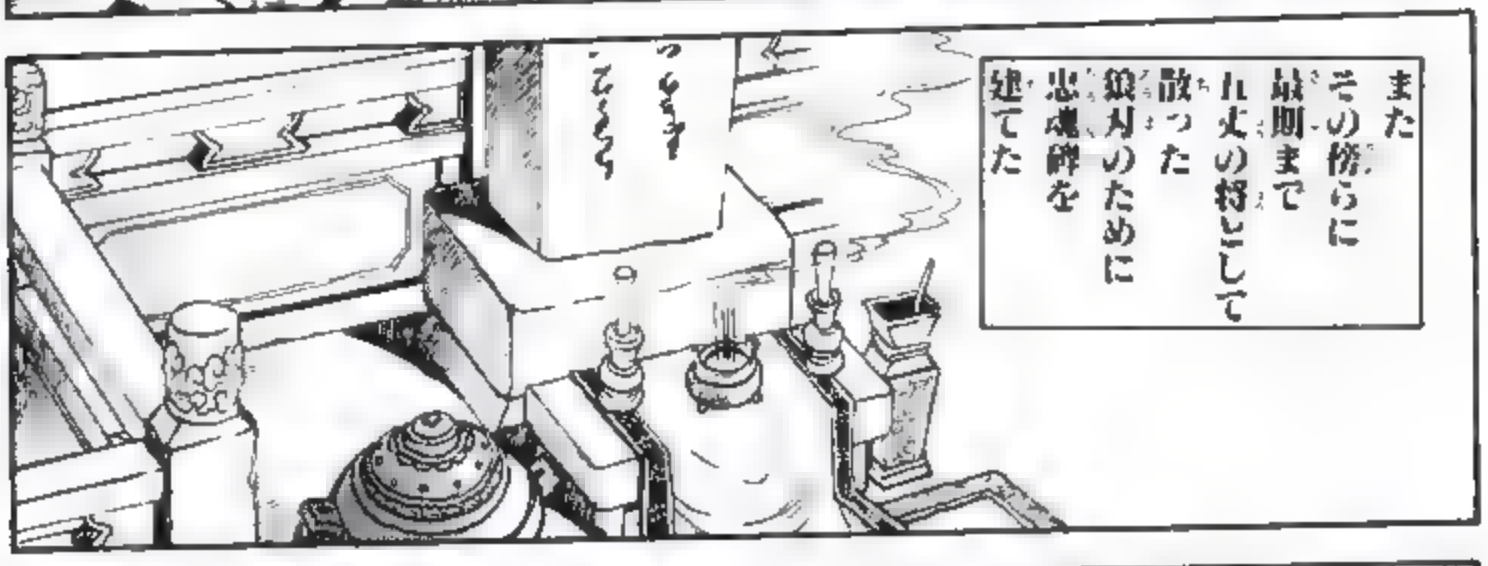
落ちんなよ!

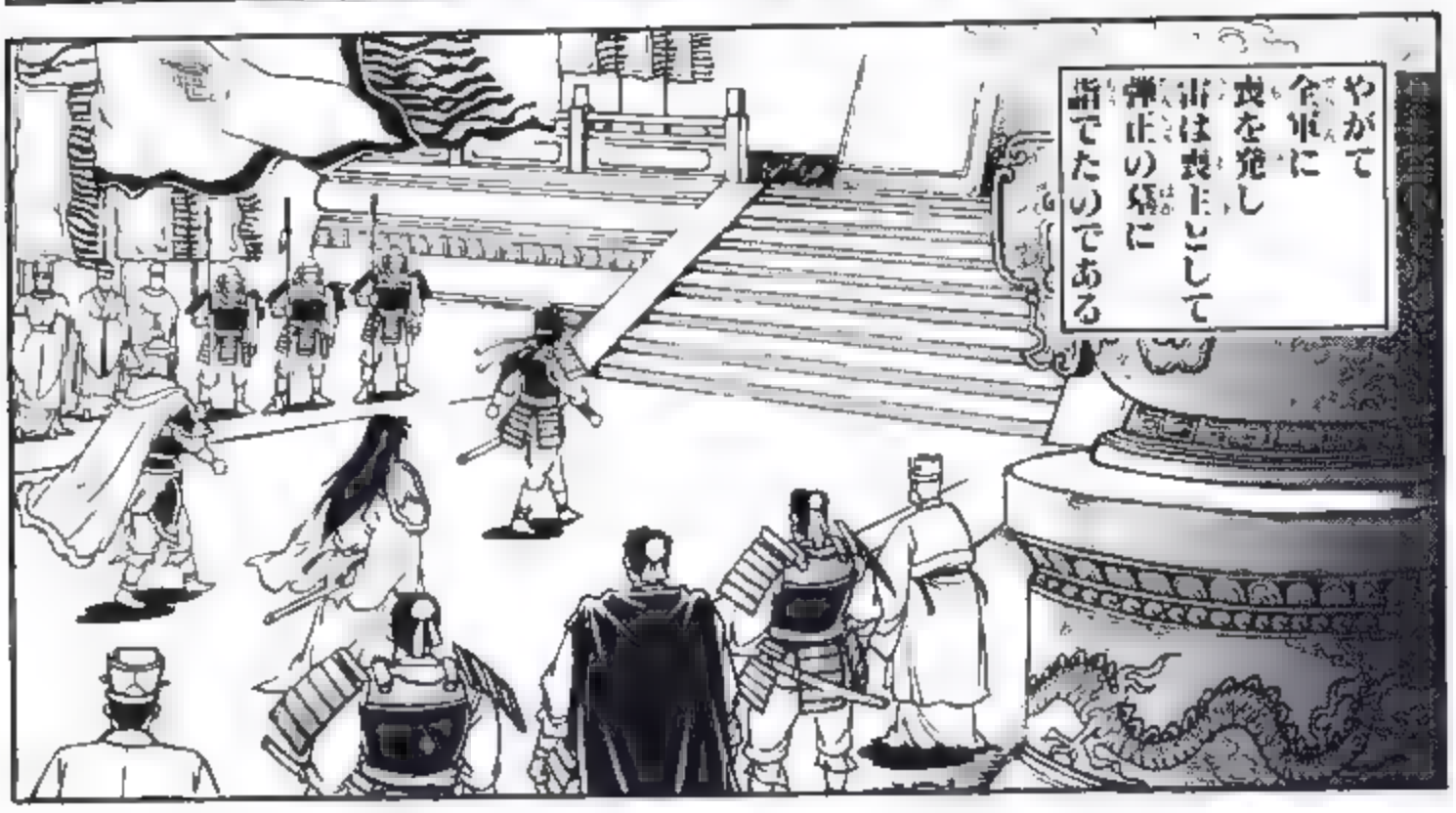
わ――ってる
わ――ってる
絶対に
離さんて

行くぜ
弾正公に
お会いしに
な!

うん
うん

宙は
骸羅の略奪で
荒らされた
秩序を
実質仁事で
修復し


また
その傍らに
最期まで
五丈の将として
散った
狼刃のために
忠魂碑を
建てた
つもる
こともる


やがて
全軍に
喪を発し
宙は喪主として
弾正の墓に
詣でたのである

宙の名で
裁が発せられ
葬式を
取り仕切ったことは
すなわち……

宙が
弾正の後継者で
あることを
内外にホす
ことになる

いよいよ宙は
自他ともに認める
五丈の最有力者
として
偽帝との
最後の決戦に
挑もうとしていた……！

……

王政！

……

竜我将軍
それがしを
なぜ生かす！
このような姿で
亡き殿の墓前に
引き出されるとは
屈辱以外
何物でもない

これでも
わしは
五虎将の
一人だ！

その
五虎将王政は
先の戦で
死んだ

!!

おまえには
亡き殿はもちろん
狼刃元帥以下
先の戦いで
命を落とした者の
霊を慰めて
もらいたい

わしに頭を丸めろと……

そうだ

その役目どんな高僧よりもあの戦いで生き残ったおぬしがふさわしいと思う

頼まれてはくれないか

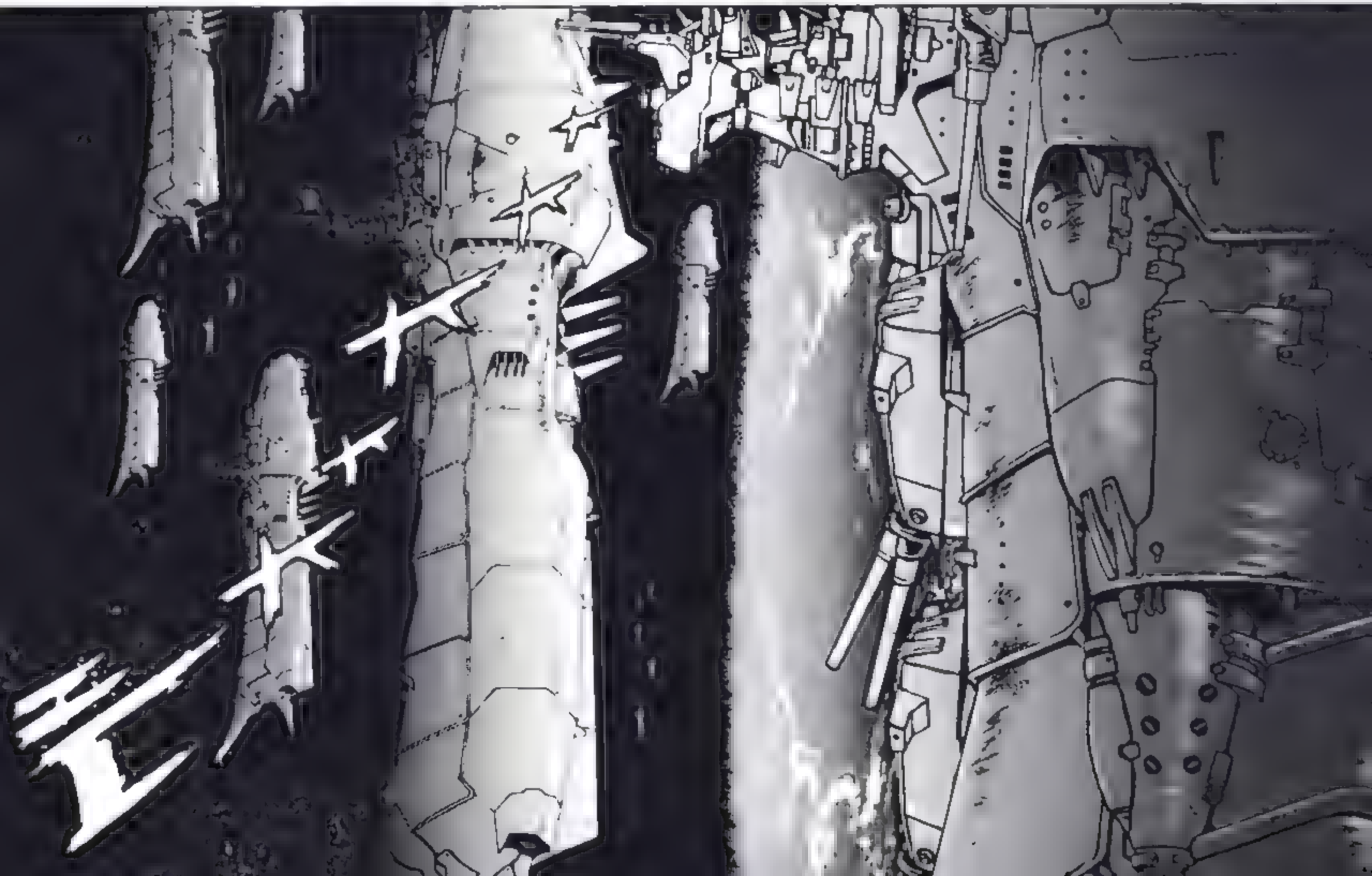
……

わかり申した……

そのお役目お引き受け申す

ありがたい

これで俺も心置きなく次の戦いに挑むことができる！



ヒュー

父君とは
しばらく
お別れだな
姫さん……

うん……

南京様行きの
船を用意している
護衛も充分
つけた

紫紋も
会いたがっ
てるぞ

……

そーいや
雷
紫紋と
結婚したんや
なあ……

お祝い言うの
遅うなって
ゴメンな……

別に
いいよ……

紫紋は
女のうちが
いうのも
なんやけど
気立ての
ええ女や

雷には
お似合い
やて
思うわ……

姫さん……

雷……一つだけ
お願いが
あるんやけど
……

ん？
何だ

雷がな
天下取ったらな……

俺が天下を
取ったら？

後宮の
一番隅の部屋で
かまへんから
うちを
置いてくれへん？

もう船の出る時間だぜ

待ってや雷!!

頼むわ……

うちはほんま雷が好きやねん

もう
お酒も
やらへんし
紫紋に
ちょっかい
だきへん

せやから
側においといてや
お願いや……

うちには
留しか
おらへんねん

留に
心底
ほれとるんや！

うちを
捨てんといて～～～～っ！

バカやろう
捨てるわけ
ねーだろ

ほんま？
ならうち側におってもかまへんの？
ああ！
いたけりゃ俺の城にずっといてもいい！
紫紋も言ってたぞ姫さんはただ一人の友達だってな……
紫紋が……
仲良くやろーな
雷〜〜〜っ♡
わわっこらっ!!

なあ
雷……

あのな……

ん……？

うちも
いつか雷の子
産みたーい♡

!!

うちは
いつでも
準備万端や！

せやから
雷がうちの
部屋に渡って
くるのを待ってる
さかいな！

あのな
姫さん……!!

まあ
いいじゃないの
将軍

師真！
林！

英雄
色を好むだ
子は多い方が
いい

ま
それは
さておき
……

姫！
船の用意が
できました

え～～～～

もうかいな
まだ会って
いくらも
たってへんやんか！

敵が
動き出しました！

何っ!!
いよいよ
骸羅の
お出ましか!!

恐らく……

姫さん……
聞いたろ
もうすぐ
ここらは戦場に
なる！

おとなしく
南京楼で
待っててくれ！

姫さんと
ちゃう!!

麗羅って
呼んでや!!

あ…ああ
じゃあ
麗羅
急ぐんだ！

しゃあないな
雷の
頼みやさかい……

あ

そーや
そーや

これを
渡すん
忘れとったわ！

どーした？
早くしろ！

へへん
見て
驚くな……

ほれ！

伝国の
玉璽って
やつや！

伝国の
玉璽…で
ございますか
……？

うむ
その昔
弾正の反乱の際
宮廷より
持ち出され
久しく行方
知れずだったが……

恐らく弾正の
手に落ちたものと
思われる……

燕・臨の
時代より神聖
銀河帝国まで
七代の王朝に伝わる
宝章……

しかし何故
麗羅姫の手に？

恐らく
呂斎の
邸からだろう

弾正は
玉璽なぞ問題には
していなかった
が……

正宗に五丈を
譲る話を
持ちかけられた
呂斎は
玉璽を
使おうとしたに
違いない……

確かに
玉璽には
体裁を整える
だけの力は
あります……

では
その玉璽が
麗羅姫の
手から
竜我の許に？

このままでは
私が
最も欲しかった
歴史的大義
までも
奴の手に
渡りかねん！

手を
うたねば
ならんな……

御意……

こいつが
玉璽か……!?

これを
持つ者が
銀河の皇帝を
名乗ることが
できる……

そうだ
恐らく
本物だろう

骸延が
骸羅の即位の
体裁を整える
ために捜し回った
挙句……

結局は
仮の玉璽を
でっちあげたと
聞いたが……

その玉璽が
俺の手に……

おめでとう
ございます
これも
天佑で
ございます！

しかし
よく隠し通せたな
骸延のことだ
徹底的に捜したろうに

へーん

雷！
女の体には
いろいろ
隠し場所が
あるんやで

なるほどなぁ

密輸に
よくある手だな
……

えっ？
えっ？
そ…どこです
それは……！

とにかく
おもしろい物が
手に入った……

これで
骸羅を
倒した後
うまく
立ち回れるな

こんなもんでか？

まあ
ちょっとした
はったりよ

……いきなり
本丸は無理だが
外堀は
埋められる

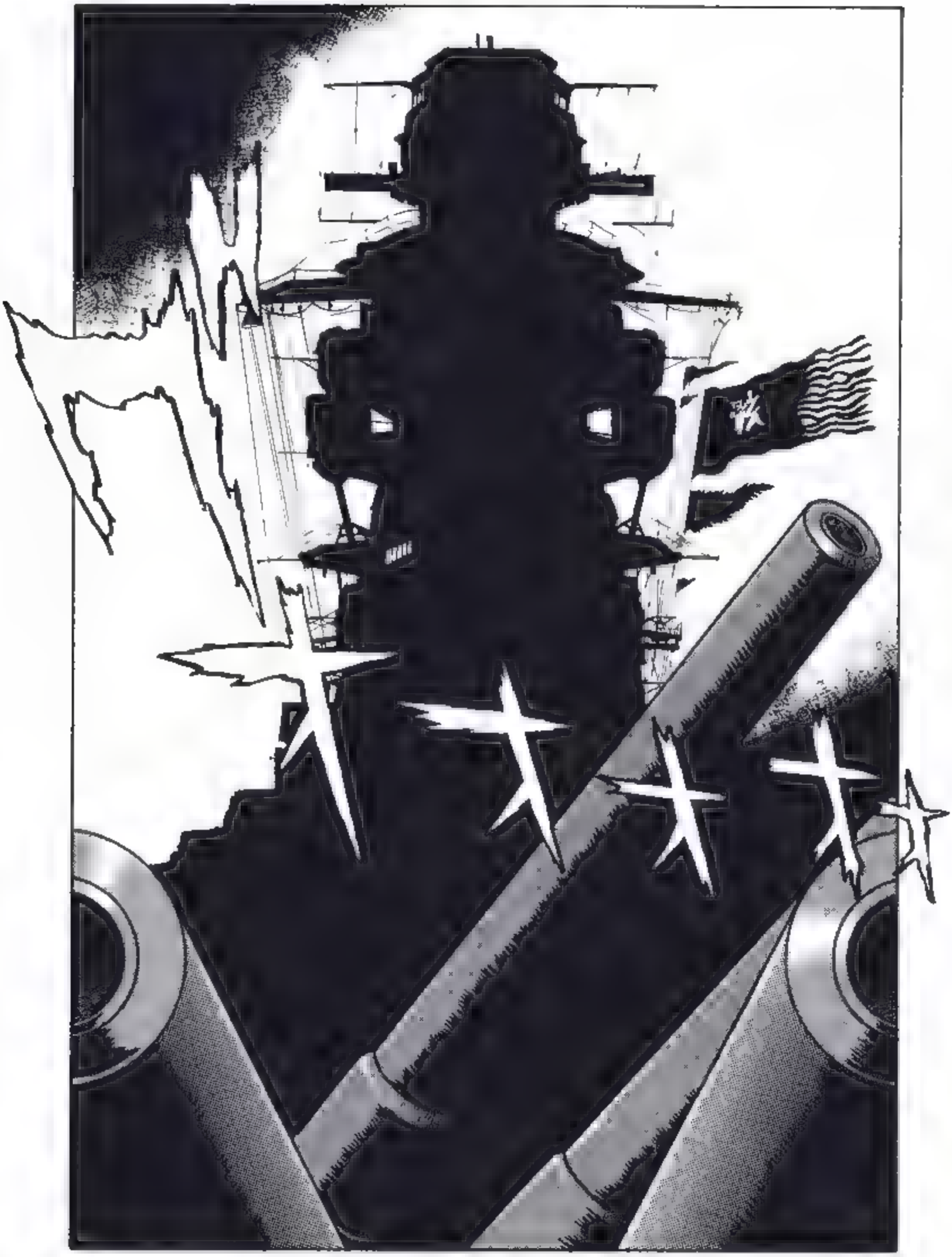
いや
よく届けて
くれた姫！

ふふ少しは
役に立てた
かいな

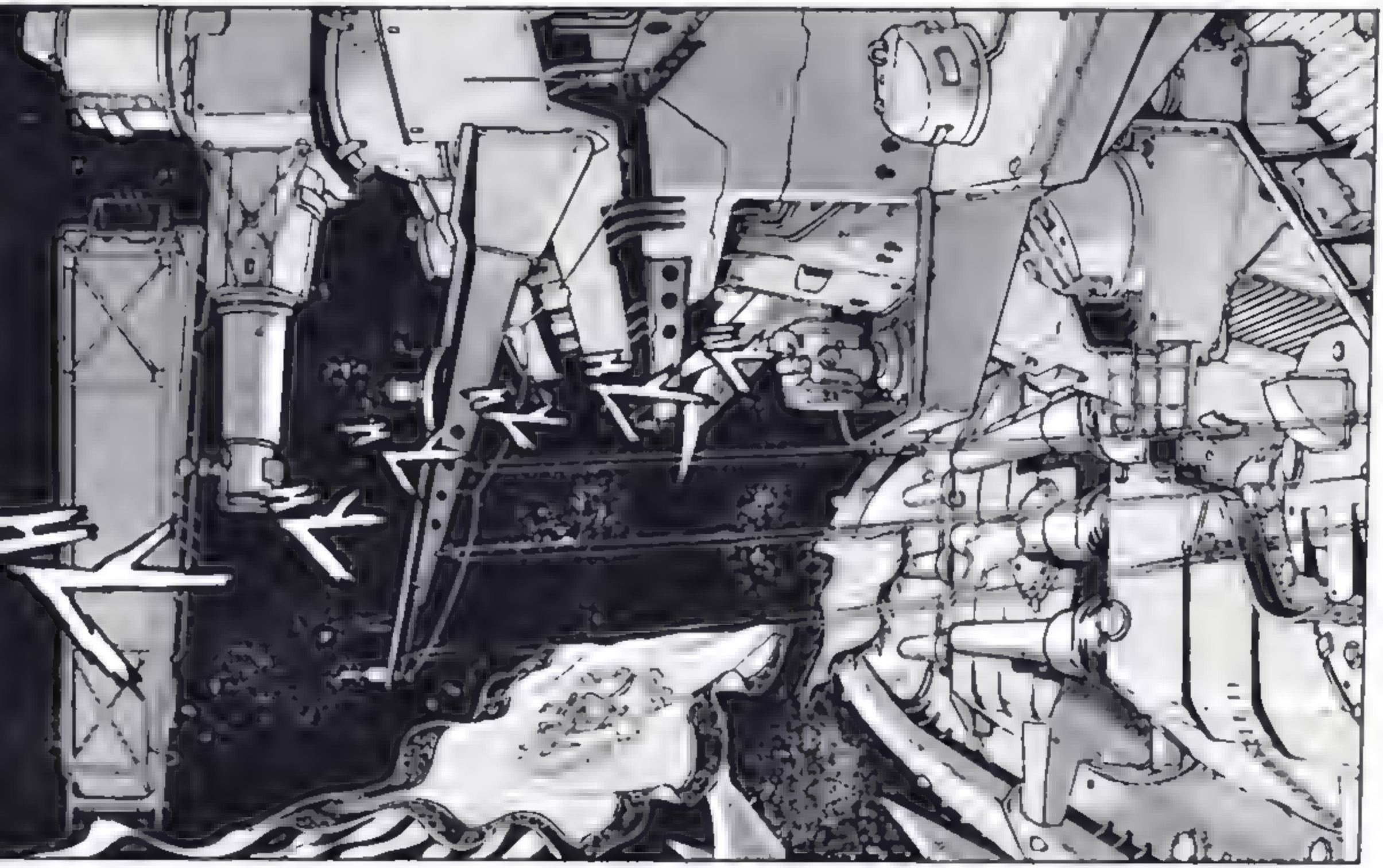
せやけど
こんどは
雷の……
……を
入れたげる

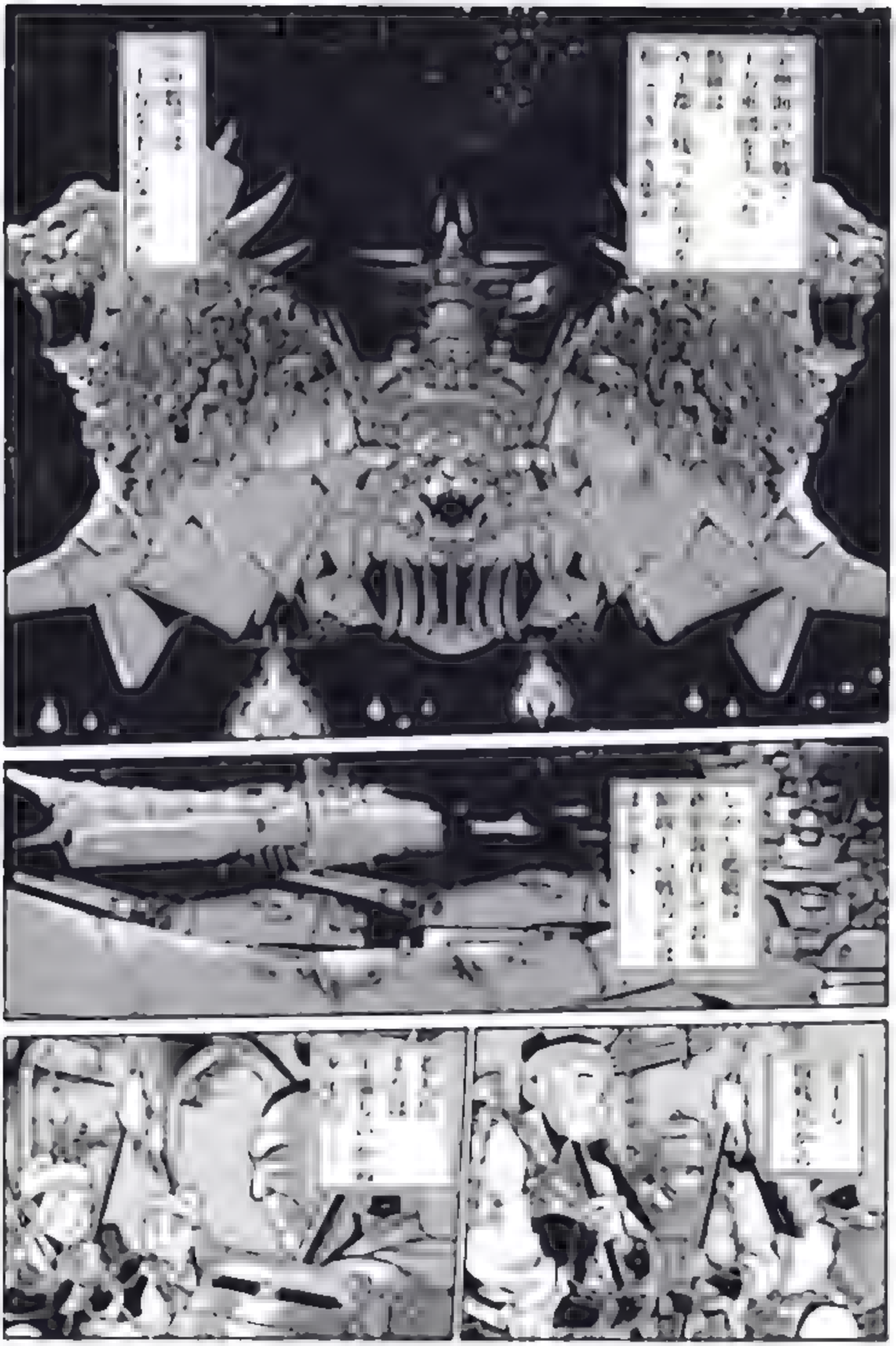
調子に
のんな〃
バカ〃

バカとは
なんや
バカとは！



敵艦隊捕捉ーっ!!





一度たりとも弓矢を持ったことのない殿中の工匠から料理人あるいは宦官にいたるまで動員していたのだ

その寄せ集めの軍勢の前に南京楼軍の精鋭が姿を現した

ゴゴゴ

……

聞きしに勝る
大艦隊だ……

ひっ!!

ええいっ
うろたえるな
バカ者!!

大軍とはいえ
指揮してるのは
小わっぱだ!

しかも
狼刃との戦いで
疲れ切っておる!
何を恐れることが
あるか!!

恐れながら
陛下……
とにもかくにも
陛下御自ら
矢面に立つのは
おやめ下さい

鎮遠を
後退させ
ましょう!

くわっ!!

ふざけるな!!

この戦は狼刃の弔い合戦だぞ!

わしが先頭に立たないでだれが狼刃の敵を討つのだ!!

敵はまだ陣形を組んでおらん!!一気に片をつけるぞ!!

全軍突撃!!

気の短い奴だな
もう突っ込んで
きたぞ

それにしても
バラバラな
動きだな

ふっ
見ての通り
烏合の衆って
やつよ

一斉射で
事は決まる

こりゃもう
戦しやないな

俺はすることがない任すぜ将軍

だからって飲むなよ

はは……外の騒きで酒がまずくなる林！ちょっと付き合え

は…はい失礼します！

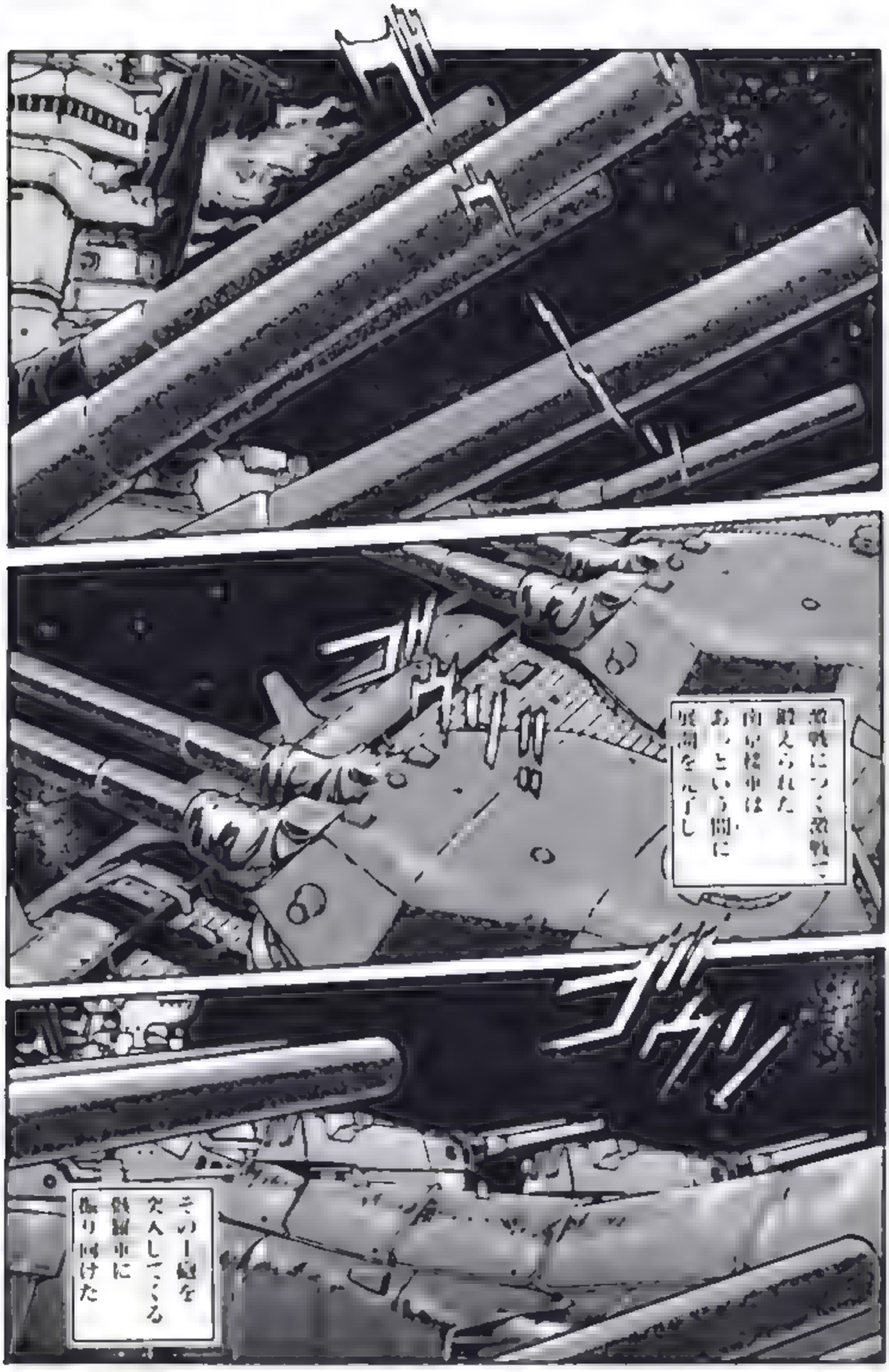
……

将軍いいんですか軍師は骸羅をなめきってますが……

戦うのは俺たちの仕事……あいつは次の次を考えるのが仕事さ！

骸羅に引導渡すぞ！

全艦砲撃用意！


激戦につぐ激戦に
投入された
装甲車は
あという間に
損傷をうけ
その一団を
突入してくる
装甲車に
振り向けた

これが三楽斉殿からの西光についての報告書です

林！

斉王都での戦い以降は舵取りがむずかしくなるぜ

はい！

砲弾の飛び交わない戦い……

俺たちの真価もそこで問われる

撃て――っ!!

うおっ!!

ひっ!!

ひいいっ!!

こ…後退しろ!!
退却だ――っ!!

もともと
戦意のなかった
寄せ集めの
儀羅軍は
この一斉射で
完全に
浮き足立ち
勝手に退却する
艦が続出した

ま…まて
待たんか
この意気地なしが!!

勝手に
逃げる奴は
許さんぞ!!

おのれ
何という奴らだ!
全員首を
刎ねてやる!!

へ…陛下
これては
戦に
なりません!
鎮遠も後退
すべきです!!

ならん!!
叛我の首を
刎ねるまで
わしは戦うぞ!!

一大事です!
何事か!?
本艦の
乗員・兵員
多数が退艦して
いきます!!

くそったれが!!
連中を
呼び戻せ!!

首に縄かけて
でも
連れてこい!!

……

……

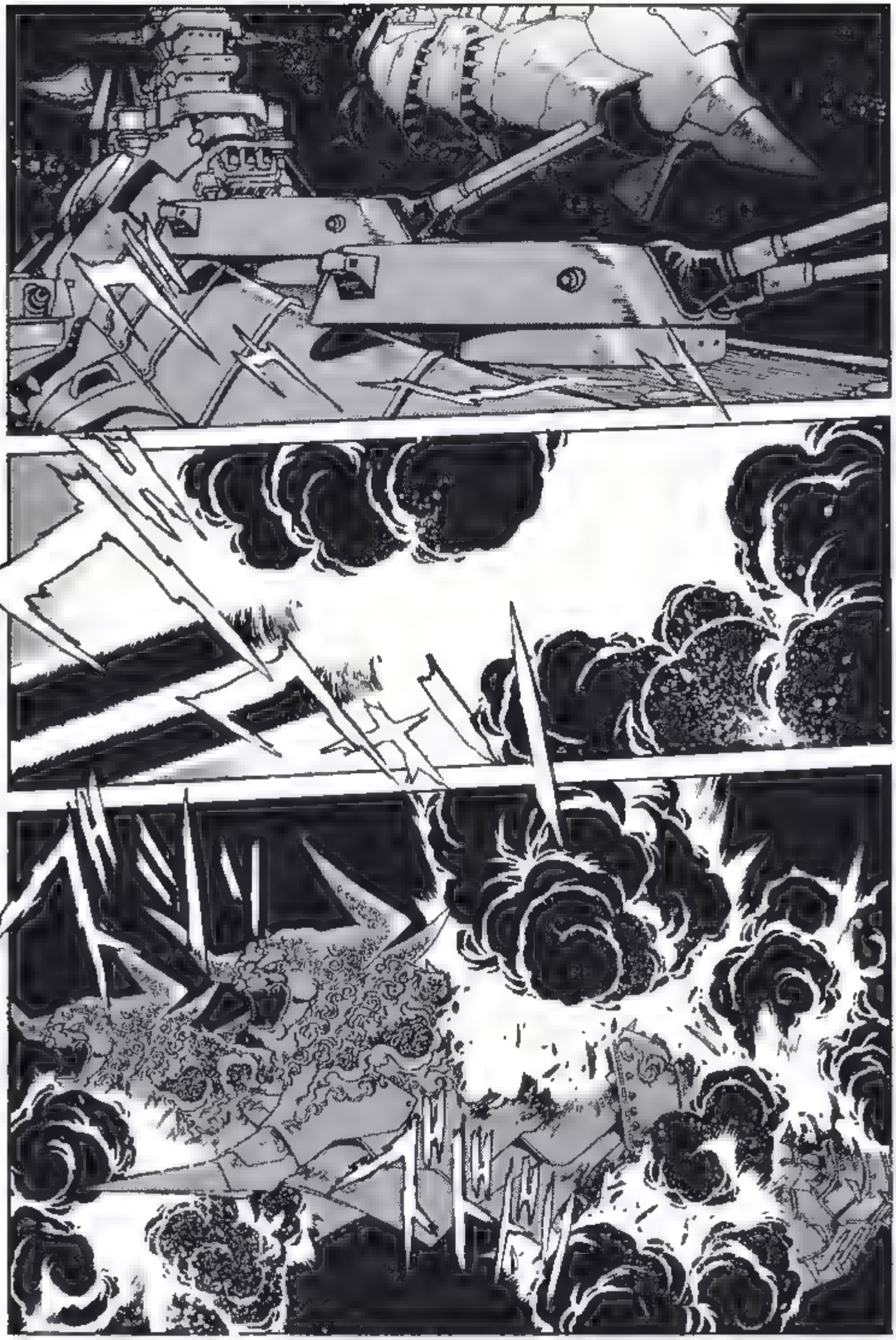
何をしておる!
わしの命令が
聞けんのか!!

蜘蛛の子散らす
ように
逃げていきます
情けねえ連中だ

ふん!
さすがに
旗艦だけは
居座ってるな

連中の
葬送曲に
合いの手を
入れてやるか

孟閻!
第一戦隊に
命令!!



うわあああっ!!

ひいっ!!

動力系統壊滅!!
航行不能です!!

艦内通信も途絶えましたーっ!!

陛下!
危険です!!
ご退艦下さい!!

ええい離さんかーっ!!

こ……ここは一時ご後退なされ改めてご出陣を……!!

おのれ――っ!!
竜我(りゅうが)めが――っ!!

陛下(へいか)!
お願(ねが)いです!!
ご退艦(たいかん)を!!

陛下
お急(いそ)ぎ
下(くだ)さい!!

敵旗艦轟沈!!

おうっ!!

一方
雷と骸羅との
戦いを他所に
西羌軍は
戦線後方に
布陣していた

そうか
竜我が
骸羅軍を
破ったか！

それで奴は
どうしてる!?

はっ
進撃を再開し
斉王都に
向かっております

玄偉殿！
我々はこのような
後方にいたのでは
何のために
参戦したのか
わからないでは
ないか！

どういう
つもりだ!!

それは
ごもっともです

しかし竜我とて
我々が帝都での
戦いから
参戦するのは
認めないでしょう

貴公は
こう申した！
新たなる銀河の
地図を描くと……
これでは竜我の
天下ではないか！

案するには
およびません

我々は
次の次を考えて
行動すれば
よろしいの
ですよ…！

帝都　斉王都

斉王都の包囲完了！猫の子一匹逃しはしません！

よし！

こっちの降伏勧告に返事は？

拒否しています徹底抗戦の構えです

ちっあの死に損ないが!!

そんなに皇帝の椅子の座り心地がいいか！

ですがもう袋の鼠ですよ

よし総攻撃だ!!

骸羅を斉王都から叩き出せ!!

待て雷！
師真！
俺たちも降りる！
そりゃ危険だ！どんな抵抗があるかわかりませんぜ！
孟閣の言う通りだ落ち着いてから降りてこいよ
なら孟閣殿に我々の護衛を頼むとしよう
俺が!?
どうだろう将軍
まあ俺はかまいませんが……
一体何しに降りるんだ？
次の次の戦いに必要なものを守りにだ
次の次？

斉王都　大武安宮

南京楼軍の
帝都総攻撃は
その日のうちに
開始された

大艦隊の
援護のもと
項武を先頭に
雪崩をうって
王宮に突入し……

立て籠る
骸羅軍との
激しい戦いが
繰り広げられた

えええい
雑魚は
どけ――っ!!

偽帝
骸羅は
どこだ!?

この項武が
相手
してやるぜ!!

ドカ

うわっ!!

うう……

一体何が起こっているのだ……!

こ……これは一体何ごとだ……!?

ヒュン!!

うひっ!!

だからいわんこっちゃないでしょこんな時に降りてもし軍師の身に何かが起きては……!

危険を冒すだけの価値はある!

だれよりも先に行かねばならんのだ……!

あ……兄上……

兄上はどうなされたのだ…!?

こ……
これは……

オオオオオ

うわっ!!

そうか……！

破れたか
大五丈……!!

カチャ

だが……

俺の戦いは
まだ終わりは
せん！

誰か……
誰か
おらぬか!!

骸延様!?

おおっ
骸延様!!

傅格
候歟!
おまえたち
か!?

ご無事で
何より……

はは――っ
丞相
お久しぶりで
ございます

そんなことはいい
一体何を
しておるのだ!?

はっ
陛下の御命で
金庫の金を
移すようにとの
おおせで
ございまして……

ええいっ
金など
どうでも
よい！

兵を連れて
俺と一緒に
来い！
書庫に
参る!!

書庫へ？

傅格！
おまえは
陛下に
お会いして
こう申せ!!

骸延に
大五丈復興の策あり！
よろしく帝都を
脱出し
生国でおちあうべし
とな！
急げ!!

ははっ!!

他の者は
俺に
ついてこいっ!!

丞相
お待ち下さい！

何だ！
詮索は
後回しだ!!

これを……
どうぞ……

これは
……？

丞相の冠て
ございます
我々一同
この時を
お待ちして
おりました……！

……

すまぬ……
苦労(くろう)を
かけたな

行(い)くぞ
俺(おれ)に
続(つづ)け!!

書庫(しょこ)には
神聖銀河帝国(しんせいぎんがていこく)
以来(いらい)の
天下(てんか)の図籍(とせき)が
収(おさ)められている!

人口(じんこう)!
交通網(こうつうもう)!
生産能力(せいさんのうりょく)!
銀河(ぎんが)の全(すべ)てが
記(しる)されているのだ!

もしそれが
竜我の手に
おちれば
奴の天下は
盤石なものに
なる！

だが我々の
手にある限り
大五丈再興も
夢ではない！

はっ!!

うわっ!!

きゃあっ!!

ぐうっ!!

惜しかった
わね
義延……！

き…きさま…!?

おのれぇぇっ!!

華玉(かぎょく)!
ささまかっ!?

あなたなら
ここに来ると
思(おも)っていたわ

あなたにも
そろそろ
丞相位(じょうしょうい)から
退位(たいい)して
もらわないとね

このような形(かたち)で
同(おな)じ李張門下(りちょうもんか)の
二人(ふたり)が
再会(さいかい)するとは
思(おも)わなかったわ

知謀(ちぼう)に
長(た)けていると
自負(じふ)していた
あなたが
この様(ざま)とはね……
どう弁明(べんめい)を
するつもり?

ぬかせ!
殺(ころ)せば
すむ話(はなし)だ!
つべこべ
言(い)うな!!

それにしても
不思議ね

あなたほどの人が
主人を選ぶ才が
なかった
とはね……

ふん！
玄偉と兄者の
ことを
言ってるのか

兄者は
粗暴には
違いないが
きさまの主人の
ように
邪心はないわ！

ふ……
何を
たわけた
ことを……

お望み通り
ここで
殺してやるわ!!

ヒュッ

ガキッ

なんという!!

な……！

それ以上の手出しは許さん！

大覚屋師真!!

その男は敵国の丞相！裁きは竜我将軍にお任せするのが筋である！

華玉殿にはお引き取り願おう！

むっ……！

わかりました
彼のことは
あなた方に
お任せ
しましょう

ザッ

ザッ

その者を
引っ立てい！

傷の手当を
してやれ
……

ははっ！

……

奴らすでに降りていようとは……

さすがは人覚体師兵、考えることは同じね……

!!

書庫は竜我将軍の命で封鎖しました！

お引き取りを願います！

くくっ……!!

おのれ〜〜〜っ!!

お引き取りを…!!

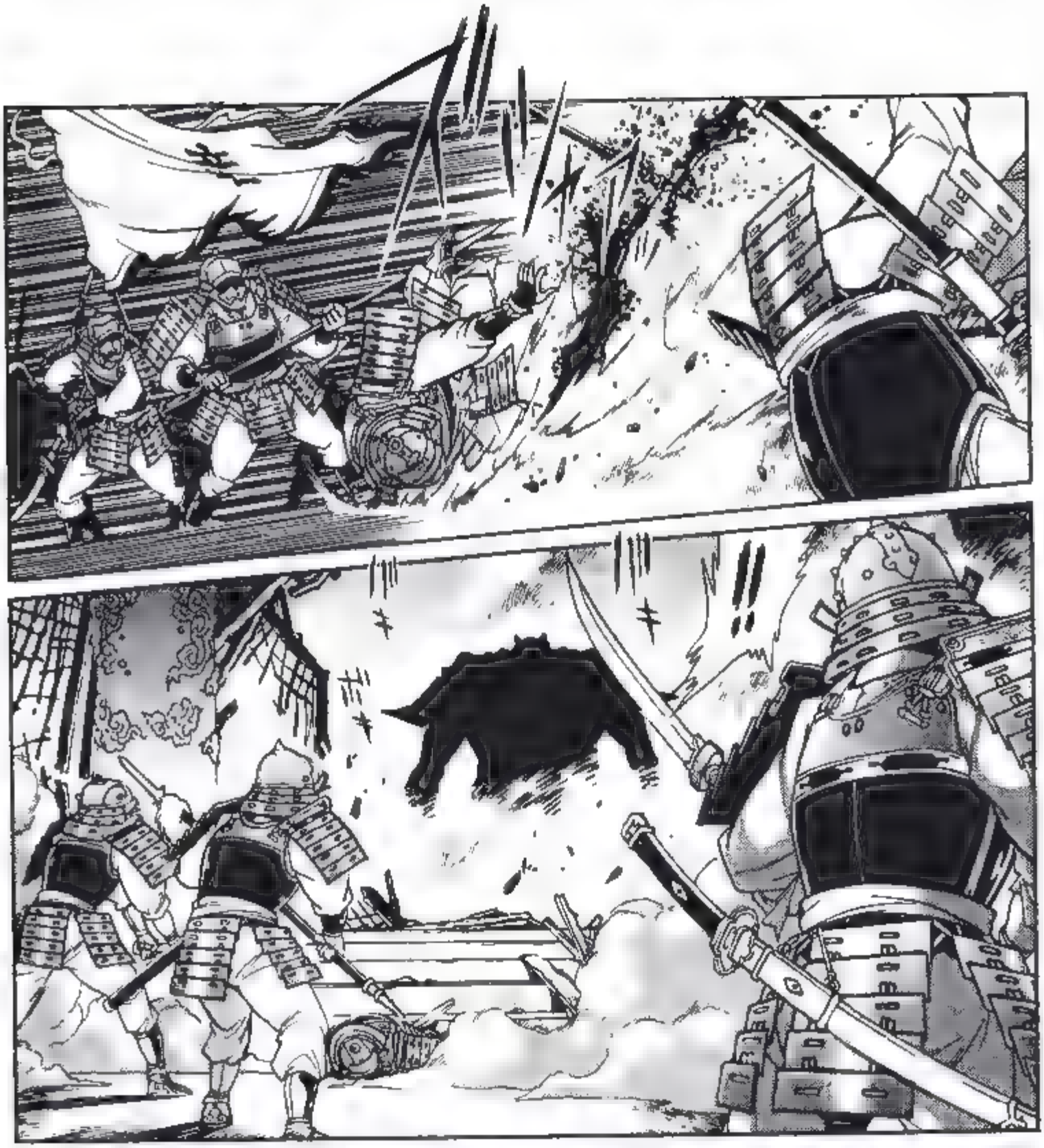
カカカカ!!

やれやれ
危なかった

ひと足違いだな

戻るぞ!

は……
ははっ!!



偽帝だ!!

魏の総大将がいたぞーっ!!

逃がすな!!

包囲して押しつつめ!!

退がれ
退がれ!!

雑魚共には
用は
ねえっ!!

竜我を
出しやがれ!!

ひいっ!!

ぐーるるるるる

ええい
手柄は
目の前だ!!
撃てっ!!

けっ

げえっ

矢が通らない!?

けけっ!!
ばばばばば!!!

SLASH!!

ふーっ
ふーっ

ふう――っ……

ふうう――っ……

誰か…！

誰か酒を持っていっ!!

ちっ
腰抜けどもが！

まだ……
まだ勝負は
ついておらんわ!!

末期の水
なら
あるぜ！

あんたに
引導渡しに
きた…！

竜我(りゅうが)あ～～～っ!!
きさま～～～っ!!!

ええ？
てめえとは
何かと
クサレ縁だな……
そのてめえが
俺に引導だとお？
笑わせるな!!

さあこい
小僧!!

格の違いってやつを
見せてやらあっ!!

戦う前に
ひと言
狼刃元帥の
言葉を伝える…!

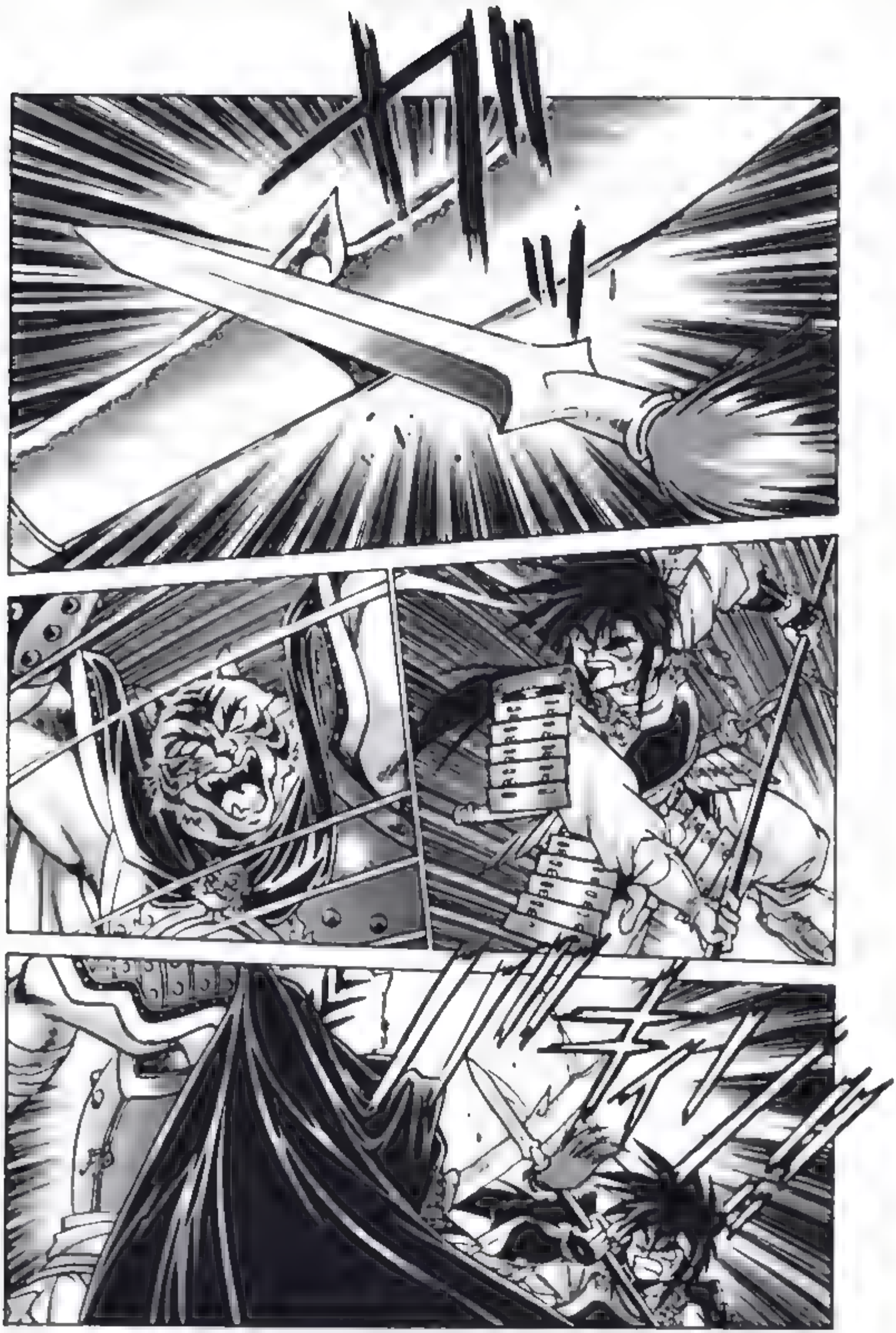
なに!?
狼刃の……

ああ
元帥は
こう伝えて
ほしいと
言われた

おまえには
龍袍の直垂は
似合わない!

地獄に来るなら
共に酒を飲もう
と……

うおおお



ぐふふ
最初の威勢は
どうした!?

気合い入れねぇと
頭
カチ割られるぜ
ええ!?

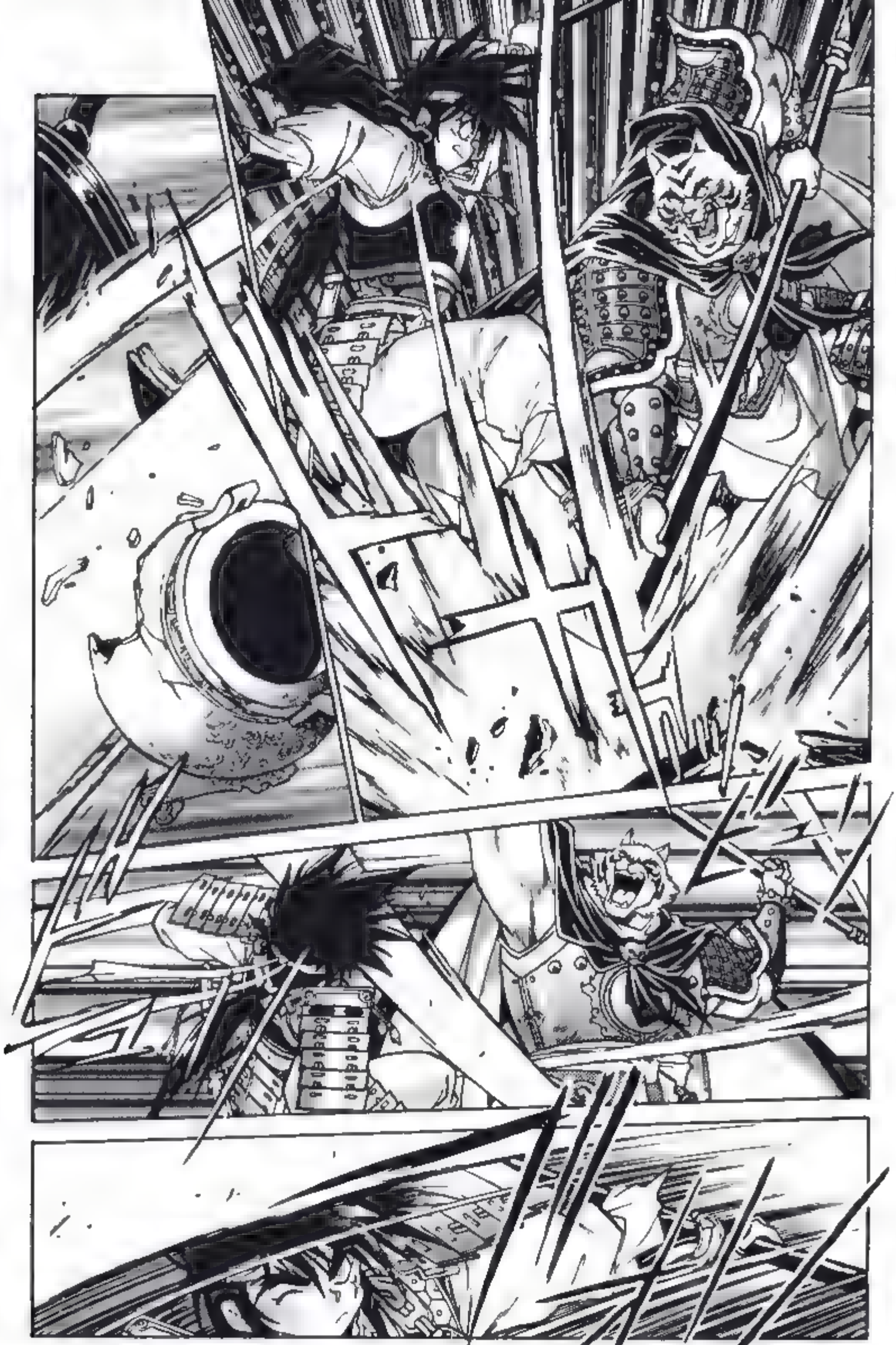
ギリ ギリ

へっ
相変わらず
バカ力だけは
大したもんだな

けと
キレは
昔の方が
あったぜ!!

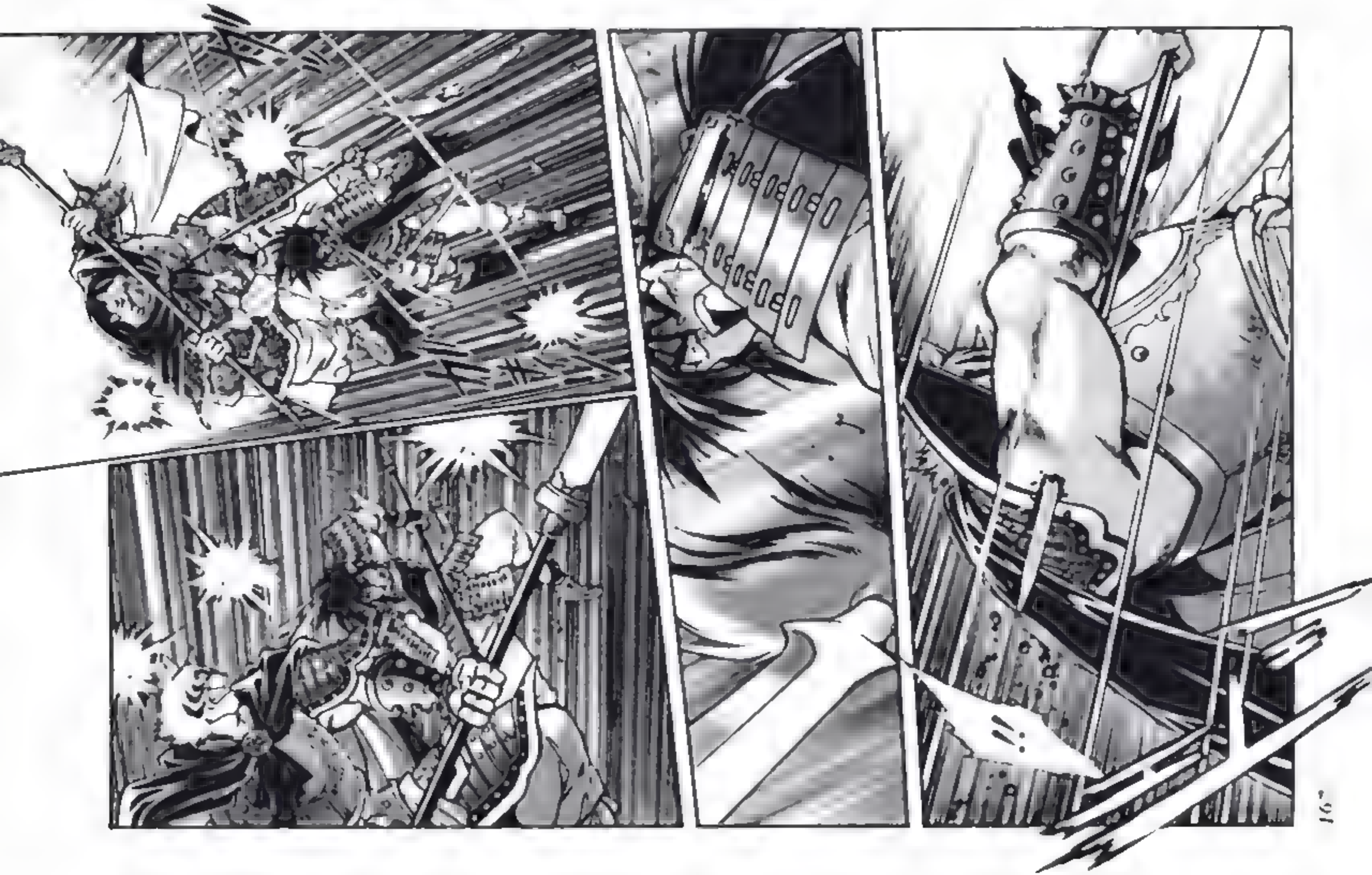
な…!!

かわいくねぇ
野郎だな!!



この野郎…！
ちょこまかと…!!
皇帝の暮らしで肉が付いちまったようだな……
この程度でもう息があがっちまったか

今度は
こっちから
いくせ――っ”



わはは！
久しぶりに体が動かせて極楽じゃわい！

!!

和尚
またおいらに
借りができちまった
ようだよ

へへ！

太助!!

わはは
生きとったか
こいつ!!

和尚こそ
悪運強いな!!

これまでだ 義経！

仮にも皇帝だったんだ 今さらジタバタするな!!

きさまの
つくった
帝国の滅亡に
ふさわしい
死に際を
見せて
もらうぞ!!

おのれ
若僧が……!!

将軍
危ねえ!!

うわっ!!

!!

将軍！
おケガは!!
ああ
助かったぜ！
スマン
項武
骸羅の
野郎は!?

わかんねぇけど
これじゃ……

くそっ
ここまで
きて…!!

逃がさんぞ
骸羅!!

ああ
将軍!!

将軍
無茶だ!!

もどって
きて
くだせーっ!!

あ――あ……

これじゃ
何のために
さっき
守ってあげたか
わかりゃ
しねえ……

！

い…いや
そんなこと
いってる
場合じゃねぇや!!

将軍!!!

アチョー

ハァ…

ハァ…

無様だな
骸羅！

それが
暴虐の
限りを尽くした
男の
最期の姿か…

玄偉…!!!

ふふふ
ふはははは!!

おのれ――っ!!

バケモノが!!!

くそっ
あの野郎
どこへ逃げた!!

将軍!

項武!

無茶
しねえで
くだせぇよ!!

無茶も
何も
俺は狼刃元帥と
約束したんだ

俺が
骸羅に引導を
渡すとな!!

ナナナナ…

将軍
今のは!!

骸羅だ!!

!!
あぁっ!!

げ……玄偉(メイ)

……

どはっ……!!

骸羅(がいら)……

!!

将軍！
どうぞ
首級を……！

いや……
それには
及ばん……

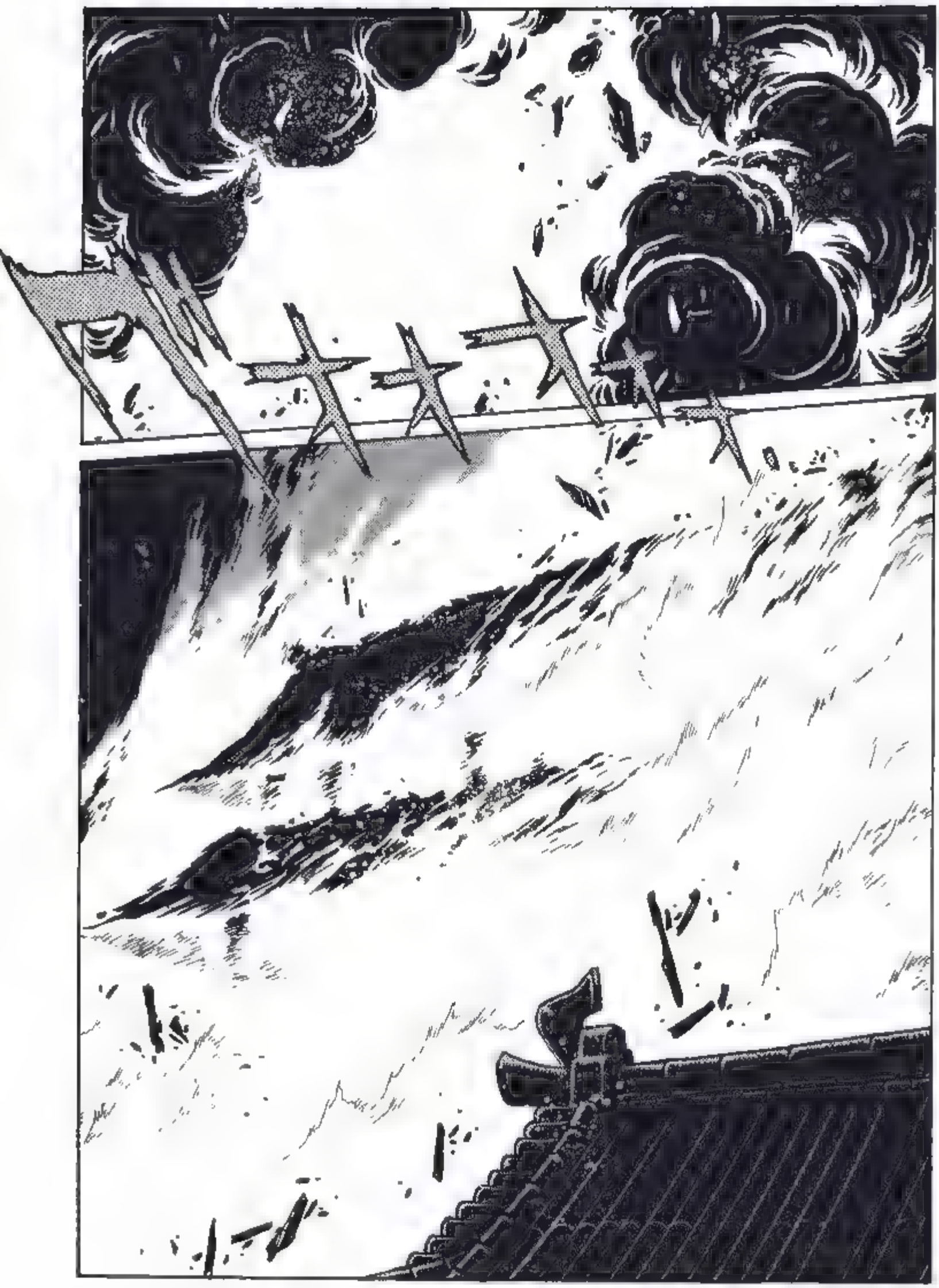
玄偉殿
偽帝を
討った手柄は
あんたのだ！

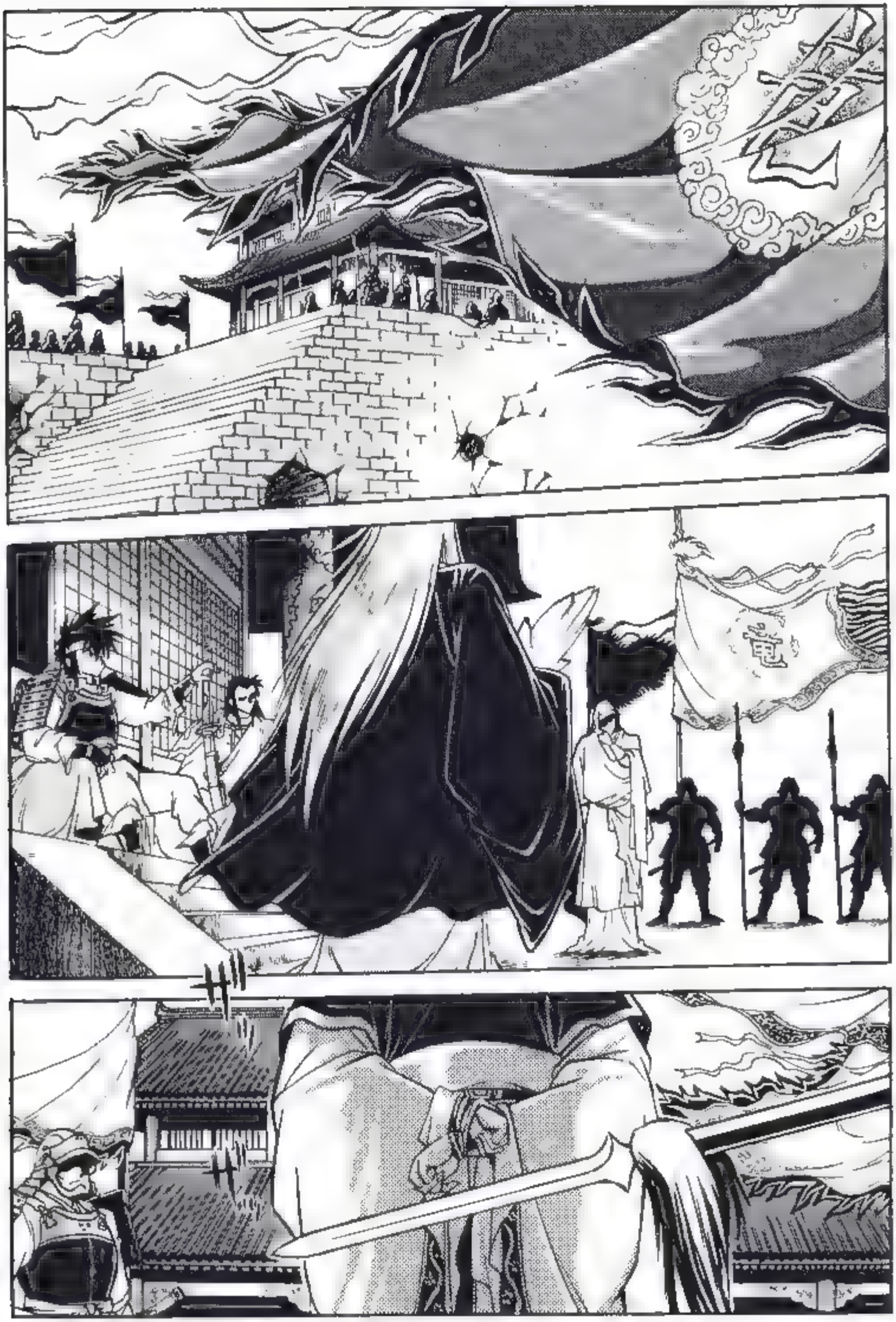
しかし
あっけねえ
もんですね
将軍……

これが
あの
暴君
骸羅の
最期とは……

ああ……

武に驕った者は
やがて
武の前に斃を
さらすことになる……！





敵丞相
骸延
連れて
まいりました！

縄を
解いてやれ

骸延……
おまえの兄
骸羅は
死んだ！

……

おまえ達から
見れば
偽帝と見えようが
帝位はこれ
れっきとした
帝位！

粗略には扱わず
葬って
いただきたい

いいだろう
無道な男
とはいえ
墓をあばき
死体に鞭うつ気は
ない
心配するな！

ご配慮
感謝いたす

骸延！

ニヤニヤ

おぬしの才
今一度
天下のために
使っては
くれないか

お忘れか
将軍！

将軍の
紫紋姫との婚儀に
このわたしが
暗殺を企てた
ことを!!

もちろん
知っている

だが
それは俺と
おまえの立場を
考えれば
当然のことだ

過去の
ことは
忘れたい

俺は
おまえの
才を
買いたいのだ！

なんという
男よ……
予想以上に
大きな男に
なっている……

竜我が
天下人に
なる日も
近いの
やもしれん……

そうだ
おまえの才！
俺に
買わしてくれ！

骸延！

本当に
俺の才を
認めて
くれるか……

もちろんだ！

……

それでいい
それで充分だ……

わたしは
大五丈の
丞相だ!!

骸延!!

国難の際に
命ごいをして
恥を後世に
残したくは
ない……!

わたしは
名を惜しむ!

それと
将軍の
陣営に……

わたしの
居場所は
ない……

……

将軍！

そうか……

惜しいが……

項武!!

はっ!!

俺の刀を預ける！

おまえが韓延の首をうて！

ははっ!!

項武は我が軍一の豪傑だ

おぬしの首をうつのにふさわしいと思う

参られい！
覚悟はよろしいか……
恨むな……
これも我々の宿命だ……
竜
むろん……

うむ……

こうして
末弟
義経の
死によって……

野望を
胸に
天下の覇道を
突き進んだ
義朝二兄弟の
夢は
ついえたので
ある……

永きに渡って血の抗争を
繰り広げる南天諸国

虎丸…

わたしは
今日より
女を捨て…
父の名
正宗を
名乗る
ことにした…！

そして
おまえの
ために
この
銀河を
切り開こう!!

しつこい女よ…

何を考えておる…？

今、その南天に
新しい流れが生まれる

独眼竜が、その鋭い眼光を
向ける相手とは!?

それに奴には
もう一匹の
小ずるい雌狐も
ついておる…！

五丈、練、智、いよいよ三国の
三つ巴の戦いが始まる

新展開の第12巻！

新たな銀河の歴史が、今、始まろうとしている。

それがし
先手の大将なれば
死も恐れませぬが
何でそのような
暇なところに差し
向けられまする

練王が留守の間
この城の事は
全てあたしに
まかされている
はずよ！

Dengeki Comics

銀河戦国群雄伝ライ ⑪

1995年4月25日　初版発行

著者　真鍋譲治

発行者　角川歴彦

発行所　株式会社メディアワークス　〒101 東京都千代田区神田駿河台1-8 東京YWCA会館　電話03-5281-5213(編集)

発売元　株式会社主婦の友社　〒101　東京都千代田区神田駿河台2-9　電話03-3294-1130(営業)

装丁　朝倉哲也+design CREST

印刷・製本　共同印刷株式会社

©JOJI MANABE 1995

R本書の全部または一部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3401-2382)にご連絡ください。

Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

初出／月刊電撃コミックガオ！'94年8月号～'94年12月号　'95年2月号(メディアワークス刊)

ISBN4-07-302876-6 C0979